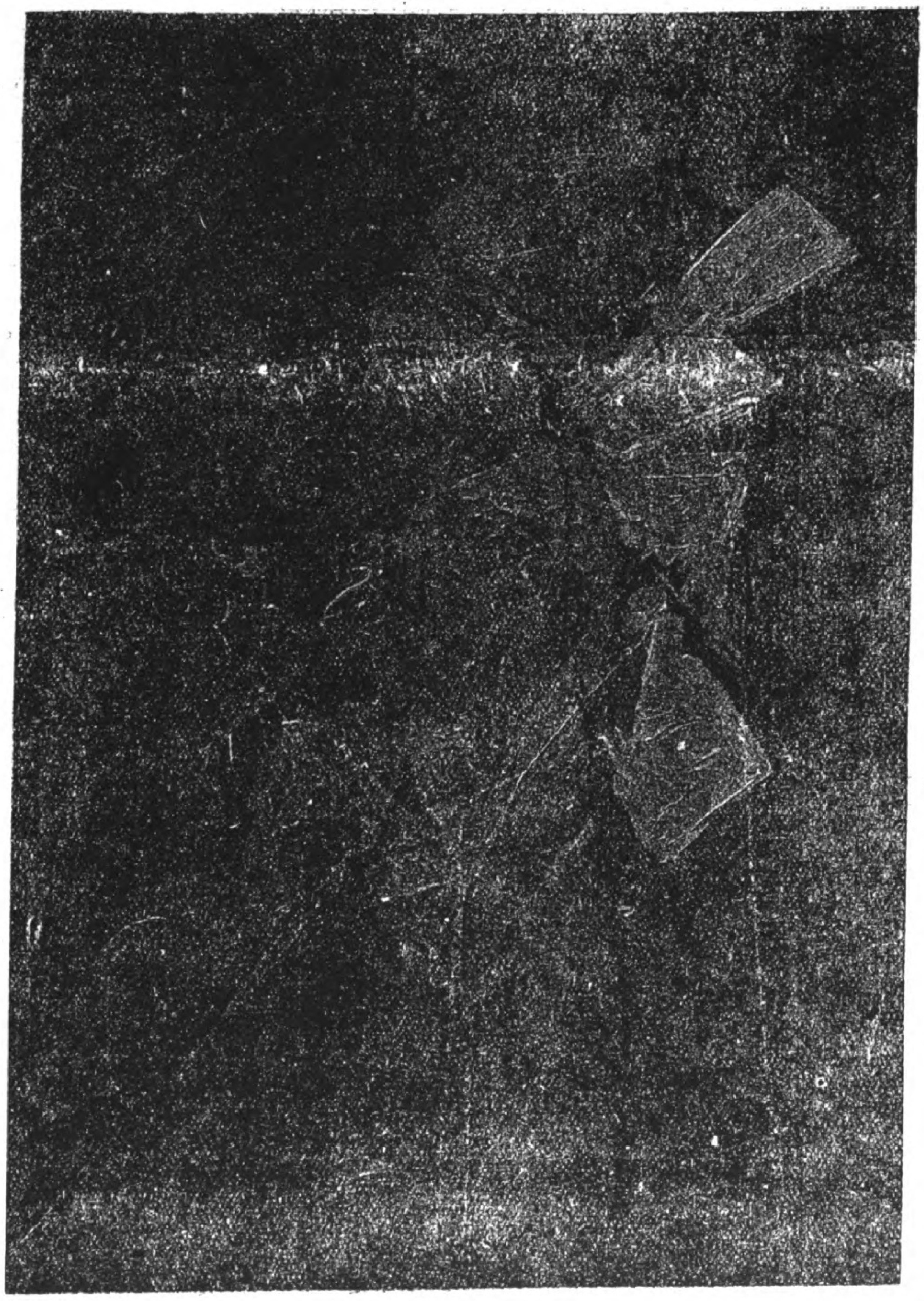
發行所 東京麴町區牛ケ淵公園 愛國婦人發行所 △振替貯金口座番號第壹壹壹八壹番 ◉電話番町五二〇 一七四五番 ▽發賣元 東京京橋區南鍋町 隆文館 △振替貯金口座八五三番 ◉電話新橋二五八六 四四三二番

愛國婦人

本號附錄（三皇孫殿下最近の御肖像を添ゆ）

本號要目（婦人と愛國（三宅文學博士）小說仕合者（村山烏徑）所謂文明病（土田醫學博士）サルの耳と人間の耳（石川理學博士）善（嘉悦孝子）小說女心（堀內新泉）等其他）

歳の名の因みより云へば、今年は申の年なり。御幣とやらん云ふもの擔ぐ人々の、或ひは『さる』とは可厭しき名ならずやと云ふがあらんかなれど昔古來より定められつる年の名なれば、奈何とも爲ん方なし。新年早早云ふて歸らぬ泣言云はんは愚かしさの至りなり。寧そのこと、お猿は芽出度やなと祝ひ直すが怜悧なるべし。『さる』とは可厭はしくとも、やまざると云ふが可懐しき精神よと云ふて祝ふべし。但し『やまざる』と假名にて書けば『山猿』と誤解する人もあるべし。されど、此處に云ふやまざるは山猿にあらずして『不止』なり。成就せては止ざるの大精神なり。我が愛國婦人會は、その目的を成就せては止まずと云ふ大精神を以て、絶えず活動しつゝあり。發展しつゝあり。擴張の策を講じつゝあり。我が會の大精神を奉じて月々幾萬の讀者の家庭に絶えず福音を傳へつゝある我が家庭教育『愛國婦人』雜誌も亦た、我が會の『やまざる』の大精神に基きて、此の新しき年に於て、愈々擴張發展の途に向ふべければ、幸に愛讀を給へ



每月二回（五日・廿日）發行　定價一部金三錢・壹ヶ月金六錢・半年分卅六錢（全國無郵送料）

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

恭賀新年

愛國婦人

鎌倉右大臣實朝

九重の雲井に春ぞ立ぬらし大内山に霞たなびく

○

今朝みれば山も霞て久かたの天の原より春は來にけり

○

春霞たてるを見ればあら玉のとしは山よりこゆるなりけり

右一首

（拾遺和歌集より）

新年の辭

もう何日するとお正月なりと、子供等の指折り數へて待ち居たるお正月は、待ち居る内に果して來りて、明治四十一年正月元日とは、今日のことなり。一年三百六十五日、同じ日とては一日もなきに、元日に限りて、如何にも年に一度しかなき氣がして、何となくめでたく、打ち笑まるゝも、妙ならずや。さらば何故元日がめでたきかといふに、通例の人には、先づ無事で一つ歳を取つたといふことが、めでたきなるべし。その次は、今年は子供が六つになりて小學校に、這入るとか、娘が嫁入りする都合なりとか、老人の年賀をするとか、事業を創めるとか、仕上げるとか、人様々の待ち構へあるべしといへども、何れも、本年に希望をおきて、その本年が今日から始まるといふことがめでたきなるべし。さすれば誠に結構なる事にて、充分めでたく元日を迎へ、お正月をなすべく、屠蘇を汲み、雜煮を食べて、祝ふだけは、充分祝ふべきなり。

されど如何に屠蘇を飲み、雜煮を食べたりとて、それが年中の仕事の出來る呪ひとなるにもあらず。年中正月の積りにて、微醉ひ機嫌て、滿腹て居たらんには、唯だ眠むきばかりにて、仕事の仕來た夢は見ることあらんも、實際は出來るものにあらず。即ち春風に醉ひを覺まし、屠蘇にたるみし眼眸を見開くと共に、眞面目になつて、各々その本年の計を考へざるべからず。一日の計は、朝にあり。一年の計は、元日にあるの道理。立てたきは、その一年の計なり。明治も四十一年となりて、人間にすれば不惑を越ゆること、一年、明治時代の仕事盛り、國家も個人もその積りにて働かざるべからず。婦人の仕事も中々に多し。家庭に於いて娘、妻、母、姑としての任務を、それ〴〵能く盡すことは勿論、殖産、教育、矯風、救護、慈善等の社會的事業にも、大に盡力すべく、又常に精神の修養に心掛け、上品なる人間と爲ることを期せざるべからず。我等は、本年において、國家及び國民の各が、奮發して、四十一年らしく各方面において一段の進境を見んことを期待して、その前途を祝するを禁ずる能はず。

我が愛國婦人會は、一定の目的を有する日本第一の婦人會として、國家及び國民と同じく、豫め本年に處するの覺悟なかるべからず。云ふまでもなく、本會は、軍人の遺族及び癈兵を救護することを、その生命として立つものにして、本會は、此目的に向て、本年は大に猛進せざるべからず。軍人遺族及び癈兵のある限りは、本會は、之を救護すと、天下に吹聽し居る面目にかけても、必ず充分その所期を達せざるべからず。往年、皇后陛下の本會に向つて、優渥なる令旨を下され、總會に行啓の光榮を賜はり、又總裁妃殿下の常に御心を注がせられ、度々地方支部總會に御臨場遊ばされたるも、畢竟本會の責任を重大と思召されたるに外ならずと恐察し奉るものなり。我等は本會及び七十萬の會員諸姉が、本年において、如何なる意氣込みを以て、如何に目覺ましく、活動せらるべきかを、今より想像し、期待し、更に一杯の屠蘇を汲んで、本年の首途を祝するものなり。

△女の指十本で軍艦を造る法

▽前號誌上に豫告せし、右記事は本號第四面に掲ぐ。讀み落し給ふ勿れ△

婦人と愛國（上）

文學博士　三宅雄次郎

愛國婦人會は軍國の急のみに應ぜんとして起りしものならず。されど彼の三十七八年戰役の爲めに盛運に赴きしは、疑ふべからざる事實なり。寔に僅々數年にして五十萬以上の會員となり、而して現に七十萬人の有力なる會員を有するに至りしは、全く此の軍國の事ありしが爲めなりしや勿論なり。かゝる砌に、かゝる性質の會あることの必要なるは云ふ迄もなし、且又た將來に於いて、何時いかなる戰役の起らざるかを保證し難きが故に、その際再び、過去同樣の大なる働き現はるゝことならんが、退いて思ふに、或ひは此の數年間に於いては、戰爭らしき戰爭莫きやをも保しがたし。これを近き歴史に徵するに、獨佛の間常に戰機切りに動きつゝある如く思はれつゝ、殆んど四十年の間全然平和に過ぎ、猶ほ今後と雖も、容易に戰爭初まるべき樣なきを以て見れば、東洋の天地と雖も此の數十年間或ひは事なくして經過すべきか。果して然らば、愛國婦人會の如き會に於いては何時、いかなる砌、過去戰役中に任りし如き働きを再び爲し得べきか、殆んど今日よりしては、保證の限りにあらざるなり。

事情既に斯の如し。かるが故に、常住坐臥、戰役中に於けるが如き心を以つて事を爲さんとすれば、空しく事無きに苦しみて、或は名の實に反く如き事なきを必し難し、斯く云へばとて、愛國婦人會の起源は戰役のみを以つての故ならざるや勿論なれば、爾後相當の順序を以つて發展すべきは云ふまでもなきことなれど、されぱとて、愛國の主意に基きて、いかなることを爲すが果して最も適當なるべきかと云ふことに就いては、充分の考慮を要するや論なし。余は次號誌上、この點に關して言論するところあるべし。

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

恭賀新年

愛國婦人

サルの耳と人間の耳

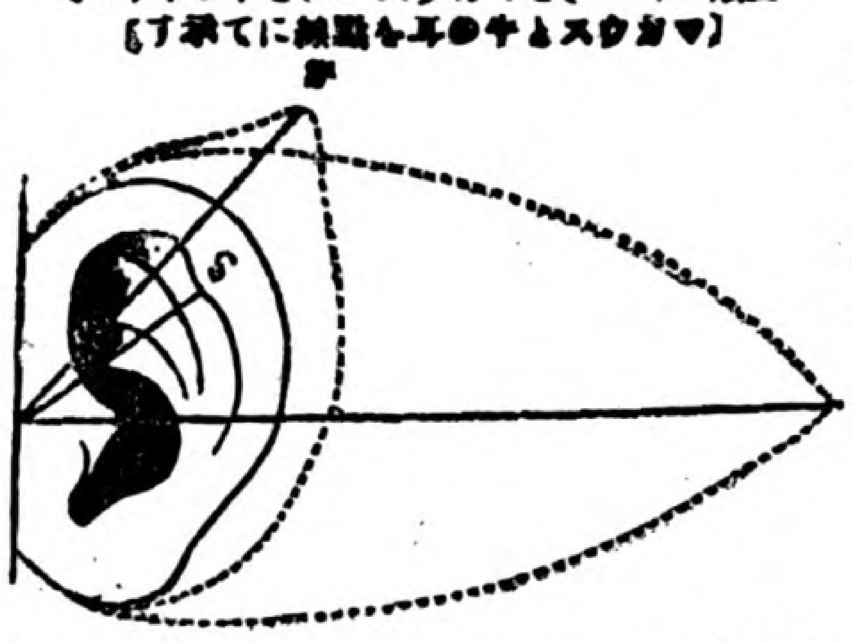
理學博士　石川千代松

サルは人間に能く似て居るが、就中その感覺器官が面白い。と、云ふのは、サルも人間と同じ様に、感覺器官が一般に鈍くなつて居る。

第一圖　ウサギの頭

鳥獸等へて見ると、高等なものであるから、感覺器官が能く發達して居さうなものであるやうに思はれるのに、却つて、其の感覺器官は鈍いのである。吾人の鼻は決して犬の鼻のやうに鋭くない。吾人の目は、決して鷹の目の様に能く見えない。サルも之れと同じ事であつて、目も鼻も耳も、吾人と殆んど同じ様である。然し之れが、與にサルや人間が高等であることを證明するのであつて、動物が劣等であるに伴ふて、其の感覺器官が鈍いのである。總じて總べての下等動物は、感覺器官が發達して居ないが、これ等は最下等のもので、少し進んで來ると感覺器が發達して來る。すると、少しても、これ等感覺器官の發達の良いものが、生存競爭に勝を取るのだから、感覺器官が段々と發達して來る。この様にして狐の様な鼻、鷹の目、犬の鼻等が發達したのである。處が動物に智慧が發達して來ると、感覺器官が不必要になるので、サルの感覺器官が人間に似て來たのはサルの智慧の發達を示すので、其の吾人に最も能く似て居るのを示すのである。而して此の感覺器官の内で、甚だ面白いのは耳であるから、こゝに少し耳に就いて述べやうと思ふ。

第二圖　チンパンジーの頭



第三圖　人類の耳(a)とマカクス(b)とサキの耳(c)〔マカクスとサキの耳を點線にて示す〕

第四圖セルコピテカスザルの耳

總て獸類は皆立派な耳を持つて居て、又、これを自由に動かす事が出來るのである(第一圖)。處が吾人は耳を動かすことが出來ないし、又、サルも多くは耳を動かす事が出來ない。それから、耳の形も亦サルと人間とは幾らか同じやうであるばかりではなく、高等な類人猿と云ふサルの耳は、少くとも、人間の耳と全く同じやうである(第二圖)。であるから、次號には、先づ人間の耳のことから、少し述べはじめて見やうと思ふ。(以下次號)

◀今年の暦▶

一月

日	…	5	12	19	26
月	…	6	13	20	27
火	…	7	14	21	28
水	1	8	15	22	29
木	2	9	16	23	30
金	3	10	17	24	31
土	4	11	18	25	

△元旦▽　中山寧子

としあけて千代田の松にこゑたかく
君か代うたふ鶴のひとむら

善（善言、善意、善行）

日本女子商業學校學監　嘉悦孝子

人間一生涯を樂しく暮さうと云ふ事は誰しも希望する處であらう。難しも希望する處であらうが、悉く誰しも出來がたい事であらうと信ずる。これは、實に平凡なる希望ではあるが、却て此の不凡なる希望が何故に困難であるか。これは實に私共が大いに顧慮を要する事に相違ないと思はれる。

古來宗教家も、此事を繰返して説き、學者も辯を拈らして説明してゐる。しかも、古來幾人か完き樂みを得たと云ふものがあるか。頃日、新聞の傳ふるところによれば、仙臺の四郎さん(或は廣さん)と云ふ、飄然汽車に搭じて上野停車場に來たと云ふ、此白痴者、天下至るところ衣食に不自由なく、汽車に乘るも代金を要せずと云ふ、尚ほ傳ふるところによれば、此白痴、極めて温良にして同情あり、途上、小兒の泣けるを見るや、なだめすかして共に遊ぶを樂しみとすると云ふことである。

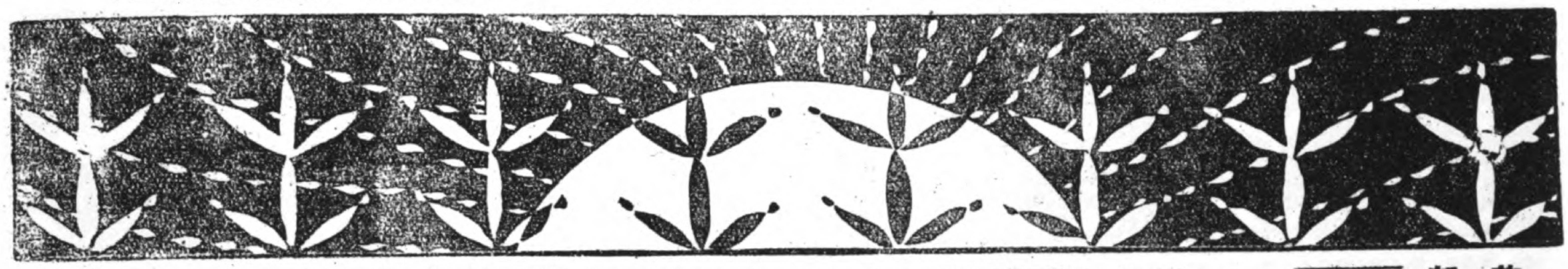
私、ひそかに思ふに、其人の白痴なると、狂者なるとを問はず、善意によりて日夕を過るものは、自ら苦痛なく、不快なし。人、これを愛し、又、これを惠むものであると信ずるのであります。

一家が治らぬと云ひ、姑嫁の折合が惡いと云ふ。要するに惡意があるからである、所謂我を本位にして人を非難するからである。即ち主我心の盛なる、これに伴ふて、自ら惡意が生ずるのである。たゞ相愛し、たゞ同情し、たゞ善意を盡して果して一家が治らぬと云ふ理由は斷じてない。

昨今の六時の起床は隨分苦しいことである。その時、すぐ起きてしまふか、今暫く寢てゐやうかと云ふ二樣の心が出る。一は善意て、一は惡意て、その善を實行したると、惡を實行したるとは、其心の樂みに於いて、幾何の相違であるとするぞ。

四十一年の初頭に於て、私の讀者諸姉に希望するところは、實に此事である。善言、善意、而して善行——この三語は諸姉の日記の冒頭に、大書しておいて貰いたいのである、一家の繁榮も、國家の隆盛も、實に勤勉なる善人、勤勉なる善主婦によつて、はじめて出來上るのである。願くば、善なる國民として、壯快なる一生涯を送りたいものである。

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN



恭賀新年

愛國婦人

女の指十本で軍艦を造る法

前篇

鬼に笑はれましやうと、何う致しましやうと、素より覺悟の上て、昨年末の誌上に、大々的の豫告を致して置きました處『女の指十本で軍艦を造る法』を、これから御紹介致しまする。

扨て本題に取りかゝりまして愛讀諸姉!!　男子方には、義勇奉公の道と申すものが自ら備つて居りまするが、全體ま

婦人として義勇奉公の道はいかに

あ、女性の方には、斯く目立つて著るしく君國の爲めに盡すの道は無いので御坐いましやうかと云ふ疑問、實に、この問題は諸姉妹方も先刻御承知のやうに、數年前既に殆んど解決せられて居りまして二十世紀も一年二年、明治の聖代も四十一年と申す、人間で申さば既思慮盛り分別盛りの今日、殆んど繰り返し喋々申し上げる必要が無いかのやうに見えて居りまする。なれども…………！

最も手近く著しき義勇奉公の道如何

斯く根本問題は解決されて居りまするもの丶、その方法、手段――即ち如何なる致方に依りましたならば、最も著しく、且つ主婦、令孃として、各自の本務に障害なく、女性として此の義勇奉公の誠意、誠神を成就し得らるゝかと云ふことに關しては、唯空しく百般の説があるのみて、更に一定の――萬口一致の御意見も更に無いやうに信じて居るので御坐いまする。

女の指のみの力て義勇奉公の道

果して然らば、幾許もある女性の身に相應しき義勇奉公の道のうち、先づ孰れを取るべきか。私の殊に申し上げたいのは、即ち、この――唯だ、此の一點で御坐いまする。私の特に此處に主張いたしたいのは、幾許もある義勇奉公の道のうちて、特に――唯だ女の指十本のみの力て容易く出來る義勇奉公の道て御坐いまする、と、さあ、申しまするとそれ

指の力て義勇奉公の道とはいかに

ならば其の致樣、仕方は何てあるぞ、何うじや〳〵とお詰め寄りになる方々も御坐いましようかなれど、何事も急いては事を仕損ずる……まづ〳〵諸姉妹お氣を鎭めて、とつくりと好う、まあ聞し召されませや。

諸姉妹方!!　私の誠意、誠心のあるところを諸姉妹に申し上げる前に當りまして、鳥渡、豫め伺つて置きたい一事が御坐いまする、と申しまするのは餘所、他の事ては御坐いませぬ。諸姉妹は同じ義勇奉公の策を講ずると致しまして、著るしく世間の眼に立つやうな仕事を好まれまするか、若しくは……假設派手に、立派に、その名、その仕事が世

派手な方法を好まざる諸姉妹よ來れ

間に著じるしく現はれずとも眞に君國に對し奉り、義勇奉公の誠意、誠心と致すことが出來れば夫れて好いとの思召して在らせられまするかの一事て御坐いまする。若し、著じるしく世間の眼に立つ方々てなければ可厭ぢやと、覺し召す方は々、ゆめ〳〵、更に、決して、此の記事をお讀み下さるには及ばぬので御坐いまする。

二十世紀新天地に於ける活動寫眞

明治家庭十姿……森　志つか作

△△△来る二月五日發行さるべき本誌第百四十五號より連載す

作とは申せど、毛頭、更に机上の空想、空中樓閣の作り物語にはあらず、飽まで眞面目に、詮議に詮議を重ね盡し、研究に研究を爲盡したる明治家庭の眞面目なり、老ひ行く明治の年波と諸共に、古きは廢れ、新しきもの迎へらるれど、追へども去らざる舊き思想と、新しき思想とは左つ右つ、家庭の縺れは之れよりぞ。この縺れを活寫せしものぞ、即ちこれ。

新體詩

新春の感　靜岡　安永みち

はるの曙光　かゞやきて
れむりさめけり　あめつちは
みたまなつゝむ　ふる木立
のぼる初日に　數見せき
のぞみの光　きらめきて
まよひはれけり　わが胸は
聞く物の音も　見るいろも
皆あたらしき　身のたづき

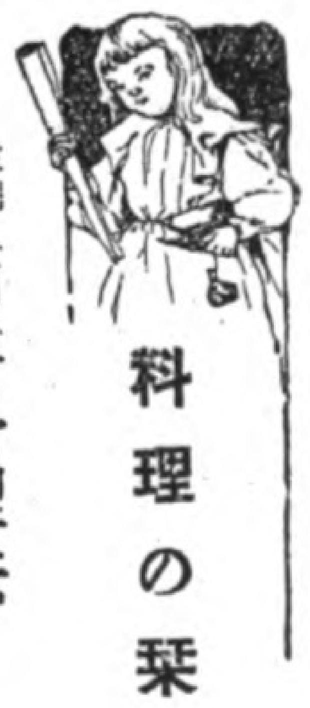
○　青森　吉田安子

美しきのぞみを　くれなゐに
咲きしさうびは　とげを生み
心にかゝる　うきぐもも
やがては　まよひの暗となる
胸に秘めたる　一すじを

うすき火かげに　たどりしも
あゝいく度か　松のかげ
共に羽根追ひ　鞠つきし
若き乙女は　母となり
ふり分けがみを　しのばする
晴れ衣の色は　褪せしまゝ
末の妹の　ぶりそでに
匂ふよ　今朝のまつのかげ

元旦　福井　雲輪良子

お正月どん〳〵何處までお出た、くる〳〵山の根まで後に餅いれて、挾木て荷負ふて、さつさとお出た。と喜び待ちし里のうなゐ等が晴衣清らに、樂げに學びやに歌ふ君が代のこゑ、白銀の花咲くこずえ、初日かげ黄金と匂ふ千町田にも響き、めでたしともめてたし。われ等も一つ年波の寄りぬとは知れど、又若やぎし心地もせられて、やうち互にことほぎかはし、子等にまぢりて歌かるた、双六、さては羅漢まわしなどおどけなき遊びに一日をいとも樂しく暮しける。これも治る御代のたまものになむ。



料理の栞

家庭簡易　西洋料理法　私立英語專門櫻井女塾長　櫻井ちか子

OYSTER SOUP.

One quart oyster, one quart milk, one tablespoonful butter, one-half teacupful water; pepper and salt; strain liquor from oyster; add water and heat. When near boiling add seasoning, then oysters, cook until they "ruffle," stir in butter, cook one minute, pour into tureen, stir in the boiling milk and send to table some prefer water in place of milk.

A soft answer turneth away wrath: but grievou words stir up anger.

柔和なる答は憤恨を止め厲しき言は怒を激す
――ソロモン――

牡蠣のスープ

△材料▽

牡蠣六合に牛乳六合、バタ大匙に一つ、水五勺位、他に胡椒と鹽。

△製法▽

牡蠣の汁を能く絞り出し、其汁の中へ、水を加へて之れを火にかけ、殆んど沸騰せんとする時に、鹽と胡椒にて味をつけ後に牡蠣を入れ、其牡蠣がフクレるまで（凡そ五分間位）煮たる後、バタを攪きまぜ、又一分間煮て、大きい鉢に遷し、煮立ち居る牛乳をつぎ込み、よく混ぜて後に器に盛るのてす。（又、牛乳の代りに煮湯を用ゐてもよろし。）

元旦　中山幸子

ほの〴〵とあけそめにけりあら玉のとしのはつ日はいまのほるらし

いまぞいつるとしのはつ日のかゞやきて千代田の宮ににほひそめたり

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

恭賀新年

愛國婦人

仕合者(上)

村山烏逕

「吾輩の妻など〻來ては、其こそ全然孩提だからね、まあ客が來るだらう、第一仲々出て來ないさ、漸く出現に及んだと思ふと、時候の挨拶も碌すッぽう出來ないて、御辭義を二三度したなり、只眞紅な顏をして引下るんだからね、傍に見て居る方が餘程赤面して了わあ。

　流行形の脊廣服に低い二重襟、靴下は黑地に白く、星を刺繡にしたのを穿き、胡坐の脛の長いのは、立てば丈の高い男と見える。綺麗な指先に埃及卷の煙草を挾んで吹かしながら、絲瓜を色漆で書いた大きな桐火鉢を中に、此家の主人と親しく話して居るのは東京△△銀行の○○課の次席を占めて居る志村今三郎といふ法學士で、今年三十三歲になる好男子。主人は名取新三と稱つて、同じ銀行に○○課主任を勤め、志村より一段上席の年齢も二ばかり上てあるが、志村とは元から互に氣が合つて、地位の上下などは眼中になく、兄弟より親しく交つて居る。

　今日は日曜に續いた神嘗祭、朝から時雨れた空は、今にも降り出しさうなのて、遠出の約束を流して、志村は此頃習ひ初めた玉突に、其先生の名取を誘ひ出さうと、晝過から來て見ると、まあ昇れと言はれて其儘御輿を据えて、話し込んで了つた處である。

　室は十疊間、主人には骨董癖もあると見えて、床の間には掛物花瓶の他に香爐や石ころや手と耳の缺けた木彫の唐子人形、其他細い置物が數々並べてある。芭蕉布の襖の右の方には唐木の棚が置かれて、其上にも水晶軸の卷物や、古い汚い繪馬、大きな靈芝、小い物が何といふ事なしにちん、ぴん、かん、ぴん、載つて居る。

「もう些と確乎してくれなくッちやあ困るんだけれども。」と志村は膝の灰を爪て彈いて名取の顏を正面に見ながら「どうか御世辭の一位は滔々言へるやうにしたいものだが、奈何だらう。」

「それは直に然うなるよ。」可なり長い頭髮を分けて、髭は上下共綺麗に剃つて居る苦み走つた顏の名取は、左の手を絲織の羽織結城紬の衣物の內懷に入れたなり、少し反り身になつて、妙珍の火箸て灰を平しながら、片頰に笑を湛へて「那樣にいふがものはない、喋つて却て困るやうになるよ。」

「然うかなあ、ても僕の處へ來てから旣三年になるぜ。三年經つても口が利けない、困つた奴だ。」

「神代なら海へ流されて了ふ處だね。」と高く笑つて、「もう三年になるかねえ、早いもんだ。然し細君は喋らんで困る位の方が佳いよ、細君が插嘴つてつべこべやられる位癪に觸るものはないぜ。」

「それも然うだね、然し僕の處のは極端に內氣なんだからなあ。」

「那樣かねえ。」と名取は銀瓶に觸れて見て、大聲に「おい、おい、おい、おもと。」

　おもとといふのは細君て、納戶に居たらしかつたが、隣の坐敷の八疊を通つて襖を開けて顏を出した。束髮に結つた小肥りの體軀、綺緻は十人並て年は二十八九、人柄は下品てない閑雅な女てある。

「湯を持て來な、それから這麼見せ菓子てない、何か喰へる者を持て來いよ、何麥酒？仍宜いね。」と微塵粉て造へた綺麗な紅葉や菊の干菓子の箱を突返す。

「麥酒は持つて參りますが、玉突の方はお歇めなんですか、折角志村さんが御誘ひに入しつたのに、却て御迷惑ちやあないんですか。」

「可いッていふ事さ、大きな御世話だよ、今玉突よりもつと大問題が持上つて居るんだ。なあ志村君。」

　志村は後に手を支いて棚の繪馬を見て居たが、細君の方を向いて媚乎と笑ふ。

「其麼御話なんて御坐います。」と志村に訊くのを名取が取つて。

「婦女童の知る事ならずよ。嬶の評判をして居るんだ。邪魔だから向へ御出て。」

「まあ。」と細君は仰山に言つて立上りながら「私は志村樣の奧樣と殿樣方の評判を致しますから、宜う御坐います。」と元來た方に戾て行くと名取は直ぐ口を切つて、

「吾輩の家の奴は、一體から言ふと喋る方なんだけれども、僕は決して手綱を緩めないて、初めさうになれば恫喝するか睨め付けて、猿轡を箝めて了ふのさ。」

「然うかね、世は樣々だ、然し僕の處のも僕には相當に口も利くんだ、時々は脹れ面位はしてぶつ〱言ふが、」と少し間を置いて「それも他のに比べれば割に少い方だらうな、何しろ臆病なんだね。」

「亭主と話をしない女房があつて溜るもんか。僕の考では亭主にぶつ〱言ふ位はまあ恕して可いさ、世間には亭主の前ておべんちやらを言つて置いて、外へ出てやれ自分の亭主は役雜だの生地が無いの道樂をするのッて、觸れ歩く奴がある。君の處のなざあ、其點に掛けては大丈夫だから仕合だと思はなければ不可いよ」

「然うかなあ、ても交際も出來ないて、まあ寧ろ嫌いて、何處から招ばれても行きッこなし——其くせ着物は欲しがるがな——それに會にも出ないのさ、此間の頭取の園遊會にも竟に缺席さ。」

「然う〱、志村は細君を惜しがつて出さないんだらうッて、皆言つて居たぜ。」と笑ひながら、今迄坐つて居たのを、胡坐になる。

「莫迦にするない。」と志村も嘲るやうに言つて、金の口から唇に落ちた煙草の粉を指で取つて、灰に彈き込む。

「那の日は北川の細君は艶飾して來たッけなあ。」

「うむ美しい細君だね、それに仲々敏腕だッていふ評判ちやあないか、賢夫人らしいね、御世辭は上手だし……。」

「お世辭の上手なのが賢夫人かね。」

「然うちやあないが、專ら噂だぜ、教育もあるさうだし、兎に角美しいからな。」

　といふ處へ細君の姿が襖を割つて現はれる、手には光る銀瓶を提げて、果物の籠を重さうに抱へて居る。

「美しい方の御話なんかなさると、奧樣に吩附ますよ。」

「志村君が今北村の富子さんを賞めて居る處なんだ、賢夫人だとよ。」

「へえ那の奧樣を。」と志村の顏を見た眼を直ぐに所夫の顏に向けて笑つた。

「てもね奧さん、僕の處の先生と來た日には全て孩提なんてすものね、人の前に出れば赤い顏をしてもぢ〱して居るし、話も碌に出來ない、夜なんかは一人ては家の中にも居られないんだから、實に困つて了う、まあ臆病な人形のやうなものなんてすね。」

「結構ちやあありませんか、人形なら。」

「顏は人形どころか、御承知の通り冬瓜の方なんだけれども、仕打がてすよ。」

「どうして貴方、御立派なものてすよ、那の方を那樣事を仰れば罰が當ますよ。」

「おや〱色男さん〱だぜ、女房の罰が當れば澤山だ。」と名取は茶を飮む。

「然し僕はてすね、北川の細君のやうなのが、實際好なんだから仕樣が無い。」

「本當に仕樣が無な、那麼のが好ては。」

「本當てさあね、私なんぞは女同志て、殿方の事は判りませんが、御家の奧さんの方がどの位佳いか解りませんわ。北川の奧さんは、あゝいふ譯て、宅が表向の媒介をした位てすから、近しくは致して居ますが、私は御家の奧樣贔負てすよ。」

「志村の細君も御喜びだらう、お前が贔負をしてあげれば。餘り姉御ぶるなよ、少しばかり年上だと思つて。」

　といふ時門の鈴の音がして、婦人の音なう聲が玄關にする。

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

恭賀新年

愛國婦人

△年々や猿に着せたる猿の面　ばせを

△今日に明けて無筆歌よむ國の春　成美

△朝夕の人もめづらし今朝の春　宗因

子猿の仇討

村羊生

上

遠い昔の事である。山に居て山の獵を生業とする一人の獵師があつた、或る年の寒い冬の一日のこと、一匹の親猿を討止めて、四足を麻繩で結えつけ、圍爐裡の上の自在鍵に吊るして置いた。ところがその夜の三更の、窓打つ霰の音もさびしき眞夜中を、何所から來たともなく七八匹の子猿がやつて來て、三匹の子猿が踏臺になり、あとの子猿が交る〲、榾火の燃えさしに手を翳しては、親猿の死骸にのぼりつき、夜の曉け方までその創所を擦りつけたといふ話がある、確か舊い頃の小學讀本にあつた話と記憶するが、猿智慧といひ、沐猴の冠といひ、兎角好い譬にはひかれない猿にも、かういふ美くしい優さしい性情があるものかと、自分は今でも感心して居る事であるが、その話にも劣らぬ佳話の一つとして、申年の因みに、可愛くもいぢらしい子猿の話を物語らう。

＊　＊　＊　＊　＊

或る年の秋も暮れ近くの事である。明け六つの鐘を旅寢の夢にきいて秋田の院内を出發し、その日の夕方最上の新庄の町はづれをとぼ〲と歩るいて居る一人の年老つた猿曳しがあつた。

さらでも物淋しい秋の夕暮れである。釣瓶落しの日はとつぷりと暮れ果てゝ、家々の窓から漏れる燈の光りが、疲れにつかれた旅人の眼には如何にも力なく映ぜられる。老ひたる猿曳しは思ひだしたやうに水鼻汁を啜りすゝり、背の上に小さくなつて負さつて居る子猿を見かへり、何か二言三言呟やきながら、とある横町の四つ角に『最上屋』といふ軒行燈の出て居る下等旅宿の古びた暖簾を潜るのであつた。

秋の事なり、相宿もなく、猿曳しは直ぐに奥の六疊に案内され、先づ繼ぎはぎだらけの股引をぬぎ、着古るした盲縞の半纏を袖疊みにしてやをら胡坐をかくのであつたが、程なく下婢が片足のもげかけた薄塗の膳を持て來たのを見ると、老爺は早速それを呼びとめて熱燗を一本注文する。大方酔のまわつた頃に四十六七と見える此の家の亭主が、宿泊帳を持つて揉手をしながら入つて來た。老爺は獨酌のつれ〲て、相手欲しやの折であつたので、先づ一盃獻じやうが話の口きり。老爺はそろ〲あらずもがなの自慢話をはじめる。話だけならまだ無難だが、やがては虎の子のやうに大切にしてある胴巻まで引きずり出して酒を買はせる、茶代だといつて五十錢銀貨を亭主にやる、老爺はもう旅から旅へ流浪してあるく漂浪者の身である事も忘れて了つた體である。

先程からその樣子をじろり〲と見て居た亭主の瞳は異樣に光つた。見かけは如何にも感心したやうに、老爺の話に耳を傾けて居るやうに見せかけながら、折〲ぎろりとあらぬ方を睨んで居る。子猿は老爺の膝の上でしきりに心配さうに首を動かして居たが、悲しいかな、酔のまわつた老爺には薩張り通じがない。亭主は無暗に酒を勸める、老爺は無暗に飲む、果ては正體もなく酔ひつぶれて、高鼾をかきながら前後も知らず寢て了つた。

亭主の顔には恐しき冷かな笑が浮かんだ。愈々それと見すまして、音せぬやうに障子をあけ、一旦室に外に出て行つたが、間もなく再び足音を窃んで忍び寄つた亭主は、矢俄に有合ふ混棒取りあげ、老爺のからだにひたと寄り添ひ、白齒を剝いてはいがみつく子猿を一擊の下に追ひしりぞけ、死骸のやうになつて横はつて居る猿曳の上に馬乗りになるが早いか、用意の細帶でいきなり一絞し、何かは以つてたまるべき、憐れなる猿曳は、うんと一聲を此の世の名殘に、虚空をつかんで悶絶して了つたのである。

不敵なる最上屋の亭主は仕濟したりと獨りてにつこり。手早く猿曳しの懷中を探つて輕からぬ財嚢を取り出し死骸は早速荒蓆にぐる〲巻きにして、その夜のうちに院内街道からずつと北にはいつて雜木山の、俗に不開藪と呼んで居る藪の中に人知れず埋めて、自分は何食はぬ顔をしてわが家に立ち歸つたが、天網恢々踈にして漏さず、天いかてか此の大罪人をゆるすべき、僅かに一夜をへだてぬうちに、うま〲と子猿のために計られて、絞首臺の露ときえたこそ小氣味よくも心地よい限りではないか。

いぢらしき子猿の仇討はこれからはじまるのである。畜生の悲しさに、みすみす主人を敵の毒刃にわたしたが、幾年愛育の恩は畜生と雖も忘れる事が出來ないのであつた。子猿はどうして最も困難なる仇討の大任を仕遂げたてあらうか？　凡べては次號の至るを俟て！

△元旦（短文）　東京　鈴木榮子

いとも靜かに明行く此朝、若水むすびて見渡せば、東天は紫雲たなびき、下に紅を包む、げに曙の景色美しく大路小路は掃き清められ、朝風にそよぐ注連飾新しき餝添えて春は今こそ、折からゆたけき御代の姿をそのまゝ初日の匂うらゝにさし昇りぬ、門の國旗の勇ましく、一際高き社頭の松のみどり、常よりも色勝りて見ゆるもいと〲芽出度き限になむ

○　山形　山形幸子

元日、晴、風あり

若水を汲み、初日を拜み、湯に行く、戻りて雜煮を喰ふ、門前さはがし、下女猿まわし來たれりといふ、書齋に入れば皷の音聞ゆ、萬歳ならむ、晝すぎて廻禮す、夜は歌かるたに更しぬ。

恭賀新年　愛國婦人編輯擔當　永持德一

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

男子の盛んに實用せる文明のトイレット!!!

將校及び高等官を始め東京紳士は擧て舶來石鹼より優るクラブ洗粉を以て最良の洗面料なりと賞用せられ海軍將校の水交社及び三越吳服店等を始め信用ある化粧品店にては男子の實用品としてクラブ洗粉の賣行頗る增加しつゝあり

華族夫人と七百家の家庭に於る化粧品

某侯爵と伯爵兩家の令夫人は最も大切なる婦人の素顏を美しくするには新しき空氣と共に効用著しき日本第一のクラブ洗粉を石鹼よりも良品なりと同族間に弘く紹介を給はりしが今や七百有餘の公侯伯子男の家庭は殆んどクラブ洗粉の愛用者にして三越吳服店に於ける御用常に頻々たり

宮中の御化粧品　女官

日本宮中の女官の方々を始め東宮御所の女官皇孫御殿の女官の方々は日常御身を淸めさせらるゝにクラブ洗粉を以て尤も適當なりと賞せられ本年四月廿六日第一回の御用を三越吳服店へ賜はり其後八月十六日迄の御用數十回に及ぶ

外國婦人が信用せる化粧品

英國大使マクドナールト伯爵令夫人は日本のクラブ洗粉を以て外國製の石鹼よりも良品なりと賞し東京津村の手を經て日常盛んに愛用せられつゝあり

將軍の令夫人と三越吳服店

三越吳服店の手を經て有名なる東郷大將閣下の令夫人及び黑木大將閣下の令夫人並に令孃の君は卅九年八月頃よりクラブ洗粉の熱心なる愛用家にして其の重き賞讃は貴婦人間にクラブ洗粉の大流行を現はす所以となれり

日本最高の女學校　高尙なる流行

學習院を始め日本女子大學校の各生徒方は美しき素顏を現はし給ふにクラブ洗粉を以て尤も良品なりと賞用せられ今や女子大學附屬の櫻楓會も又之れを販賣せられつゝあり

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

●第四年 新年號 (一月元旦發刊)　本號百六十頁 定價金拾貳錢 郵税壹錢五厘

女學雜誌 女子文壇

本號附録(短篇新作小説)◎死後までも…小栗風葉◎女裝…德田秋聲◎角…岡田八千代◎非
牧者…佐野天聲◎乘合馬車…窪田空穗(皆青年畫家の密畫挿入)

每號口繪は光澤紙密刷原色版一枚と寫眞版四頁及繪手本挿入

▲名流婦人の處女時代の談片皆金玉文字

▲各欄大發展の懸賞新作の詩文秀拔のもの滿載依例材料豐富

▼口繪には泰西名畫愛吟(光澤紙原色刷)は誌界有數美觀也

寫眞 閑院宮殿下御家庭、誌友寫眞數頁も光澤紙刷優美

每月一日發行 外年四回增刊

定價 一冊(大判百卅頁挿畫澤山入)金拾錢◎半年分(增刊共八冊)前金七拾六錢◎一年分(同十六冊)壹圓四拾四錢◎外郵税壹冊壹錢宛

發行所 東京市京橋區大鋸町十、十二(振替口座壹七貳九) 女子文壇社

▲縣下各地雜誌書店にて取次販賣す

宮崎八百吉君譯

アウガスチン 懺悔錄

定價七十錢 郵税八錢

肉慾の甘樂、罪惡の苦悶、人生の哀別離苦、花林孤影の大泣哭、而して後清亮なる聖徒的獨身生活嗚呼是れ血あり肉あり良心ある代表的偉人の懺悔錄なり、明確不磨の見神在り玲瓏徹底の獸會在り、信者不信者之れを讀んで其の自個寫眞鏡なるを知れ。

發兌 東京市京橋區尾張町二丁目 警醒社書店

懷中 要藥

清心丹

謹賀新禧

併而舊歳中之御愛顧奉謹謝候 敬具

從一日至十日 大福 箱賣始め お年玉 進呈

新年御題社頭の松

半ゑり帶揚類

○斬新意匠考案優美高尚雅致有る生粹好○諸刺繡、友染、絞り、各無地色、紅白○斬新ショール、大都花織、絹毛織其外 ○懷中帛紗○襟飾ネクタイ○男女方用襟卷○襦袢袖○高祖頭巾○京御召前掛○手がら

新橋 竹川町十二番 電新二〇二七 本店 ゑり治

神田 表神保町壹番 電本局九五二 支店 ゑり治

新橋際 帝國博品館內階下 出店 ゑり治

●一森式座椅子 特許第九〇一〇號

此坐椅子は日本室內疊の上に坐臥せらるる人々に衞生的慰安を與ふる爲めに案出したるものにして一個にして坐椅子となり寢臺となり使用了れば疊込みて携帶に便なり材料は鐵骨にエナメルを塗り之に强靭なる厚布を張り更紗メリンス繻子、二重羽、縮緬等の蒲團を加へ後頭部の觸るる處には蒲團の下に螺旋狀の枕を裝置しあるにより心地誠によろしく老人姙婦各種病人に適し特に肺病患者又は其疑ひある人喘息患者等之に倚れば自然胸部を擴むるにより大に病勢を減ずるの効あり

(定價)

一エナメル塗更紗蒲團付　金六圓五拾錢　特製 金七圓

一エナメル塗メリンス友禪又は舶來模樣付毛繻子蒲團付　金七圓五拾錢　特製 金八圓

一エナメル塗唐草蒔繪羽二重又は縮緬蒲團付　金貳拾圓以上

製造發賣元 東京市芝區下高輪町廿一番地(東禪寺電車停留場前) 電話新橋三〇六五番 樂民堂

東京特約店 日本橋區駿河町 三越吳服店

大阪特約店 西區土佐堀裏町六八番地 電話(長)西、一八二三番 常磐商會

東區高麗橋筋 三越吳服店大阪支店

橫濱特約店 住吉町五丁目六十八番地 電話一〇七二番 杉野亥之助

◉本品は高尚優美にして室內の裝飾ともなれば歳暮年始の御進物に至極適當いたし候

最上醬油 キハク印

於聖路易博覽會 名譽大賞牌受領

釀造元 千葉縣野田町 茂木七郎右衞門 (信略號(キハク)又(ハク))

キハク印醬油は味がよくて調理にかなつて居ると云ふことは皆さん一般の評判ですどーか其あぢのよくてそして經濟であると云ふことを御ためし願ます

東京支店 日本橋區小網町三丁目 電話浪花五七七四 中野長兵衞

謹賀新年

拜啓弊店儀平素種々御愛顧御引立を蒙り難有奉深謝候就ては今般市區改正の爲眞向ふ同町十番地に新築移轉仕候間相不變御引立の程偏奉希上候

流行の 櫛 簪 鼈甲 金 銀 寶石 細工 品々 束髪用品

東京神田須田町十 電話本局二〇七六番 三ツ丹屋

支店 新橋際博品館內 神田神保町東明館內

▲廣告▼

皮膚と牛乳

牛乳が皮膚を艶美ならしむるに卓効ある事は醫學社界の定論であります

歐米の貴婦人は

競ふて牛乳を洗面料に用ゐ牛乳浴をして艶々たる美しき乳の如き肌を呈して居ります

牛乳の主成分を

採り幾多の研究と學理の應用に依り製出せし乳白化粧水『レート』は牛乳の臭氣なく腐敗し易き缺點を去りたる

理想的化粧水

なれば皮膚に營養を與へ配合せる高貴の香料馥郁として自然に美艶乳白の肌となる效果偉大　畏くも

東宮妃殿下

の御用命に接したるは能く『レート』の品位物質の如何を表示すべきを以て我國上流社會に可驚歡迎を受け

白粉を用ずとも

乳白化粧水『レート』を朝夕御用ゐあれば化粧しても化粧したかせぬかわからずに美しき素顔となるべし未だ

レートを使はぬ人

は御試用あれ定價は大瓶金五拾錢小瓶金參拾錢送料金八錢各地の文明的化粧品を販賣する店にあります

にせものあり御買求の節は瓶の表に『乳白化粧水レート』の文字及び瓶の裏にある『發賣元平尾贊平』に御注意を願升

發賣元　東京市馬喰町一丁目　平尾贊平
同　大阪市東久寶寺町二　平尾贊平支店

冬と化粧

近來化粧の方法が盛んに研究せられる樣になりましたが多くは白粉等の研究のみでどうしたならば美つくしい化粧が出來るかと云ふ事を忘れられて居る有樣です一體化粧の上から見れば白粉は枝であつて其の下には根の物があるのですつまり白粉を美つくしくつけるには先づ完全な皮膚がなくてはなりません若しきたない皮膚に美れいな御化粧を仕樣としますのは丁度よごれた「ヌメ」へきれいな書を書かうとする如く不可能の事で御座います故に美つくしい化粧をなさりたい方はまづ第一に皮膚を良くしなければなりませんこれは極く譯もない事で即ち常にローヤル水を用ゐて後白粉を御つけになる事を御忘れにならなければ自然に好い皮膚となつて美るはしい化粧が出來ます寒氣日増しに酷しく今後人の皮膚は動もすれば荒れ易いのであります故婦人方は固より殿方も常に注意して夫を豫防せねばなりませぬ夫れにはローヤル水を御使になるに限りますローヤルは此の外種々の特色がありまして例へば脂肪分の多い爲にニキビの出來る人は洗面の後にローヤルを御使になれば非常の効があります又脂肪分の少ない爲皮膚のアレる方には適當の脂肪分を與へ皮膚の營養を增す等他の化粧水では到底見る事の出來ない多の効があります故に世間にローヤル水を稱して萬能化粧水と申ますのは偶然で御座いません

定價特大一圓大五十錢
中三十五錢小廿錢
郵税十二錢郵券代用一割増
販賣店は全國至る處の化粧品店洋品店小間物商藥店に在ります

滿紙珍奇寫眞各頁挿入書報兼備

婦人世界

正月元旦發行　三卷第壹號　一冊拾五錢　郵税一錢五厘　六冊郵税共九拾錢

◎男女結婚論……村井弦齋
愉快に一生を送らんとする者は讀め立論筆致痛快淋漓
▲私の感心せる歷史上の婦人……三輪田眞佐子
▲女學生の陥り易き文章の誤……西田敬止
▲在學中の娘に與へたる父の手紙
◎私の見たる鍋島侯爵夫人……鳩山春子
◎廿年日記を附て得たる利益……加藤博士夫人
◎九十六歳の長壽を保てる我が祖母の養生法　星常子
▲ヒステリー全治談　土田博士
▲小兒の人工營養法　加藤博士
▲牡蠣のお料理……弦齋夫人
▲家庭の要する婦人　嘉悦孝子
▲光明ある生活……棚橋絢子
◎私の日常生活　跡見花蹊
◎小説その一夜　廣津柳浪
◎野口ゆか子女史（評論）
懸賞　家庭重寶△文字合せ△名文選擇
◎斯くの如き女學生は成業せず
女學生の缺點を擧げて其急所を衝く觀察鋭利文章流麗
◎大懸賞珍附錄　總價千圓　點數二千八百
賞品　▲懷中金側時計▲懷中銀時計▲帶側▲絹張洋傘　寶石入金指輪▲蒸氣ごそ▲大島紬▲金帶止　鬪球盤▲絹製手袋▲銀貨入▲蒔繪硯箱幅紗等

東京京橋南紺屋町十二　實業之日本社　（郵便振替貯金口座參貳六番）

一月二日三日初賣仕候

よせぎれ見切太物總陳列

日本橋通り四丁目　松屋呉服店

上品の容姿は完全なる前髪じんに依りて裝ふ事を得！

米國製

東髪前髪じん

ヘヤロール

○一大注意　ヘヤロールは今や歐米に流行しつゝある東髪前髪じんなり、從來の毛製品は彼の忌むべき癩病患者又は肺病患者の遺髪の混りある憂ひありて衞生上恐るべきは勿論、常に欝陶しく頭部に痒みを起し果ては禿げる心配等ありて知らず〳〵一生の不幸を來す恐あり、大に注意すべし

○本品の特長　ヘヤロールは微細なる金線にて製し輕事鳥羽の如く空氣の流通至極宜
外部を優美なる絲網にて覆あれば毛を損じスベリ出す憂なし且、腦病又は頭痛の方には衞生上最も有益の新輸入品と謂ふ可きなり、故にフケを生ぜず伸縮自在なれば大小の前髪になづみ最も上品の容姿と裝ふべし

類似の粗品續々現はれ特に「米國製」と御指定を乞ふ　定價一個卅八錢　送料八錢
團體にて多數御注文の際は割引御便利可致候

輸入元　東京々橋鍋屋町一　日加商店　振替貯金口座八六六九
特約店　東京日本橋區橘町四御園おしろい本舖　丸見屋商店
大阪東區南久寶寺町三婦人小間物問屋　小栗小三部
販賣店　各地和洋小間物化粧品店

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

恭賀新年

愛國婦人

所謂文明病に就て

醫學博士 土田卯三郎

岩佐令夫人の御紹介で何か雜誌へ登載せよとのことで殊に少しく高尙なる問題に就てとの御注文ですが茲に申上ることが御誌へに適するや否やは分りませぬが兎も角も掲載を願ふことに致しませう

吾國が世界の一等國の列に加はつたと云ふことは即ち換言すれば文明國になつたと言ふことで此の文明と相關聯して免る可からざる文明國副產物の一として數へらるる或る疾病がある即ち所謂文明病此れなり

私が先年歐洲にて腦病の研究室に仕事をして居ると或歐洲人が問ふて曰く汝は何故に斯る學課を研究するやと其時私は自分が好きであるからと答へました、所が彼の人、又曰く、假令ひ好む處の學課なりと雖も汝が歸國後は如何になすやと、諸君御分りになりましたでしよう、彼の歐人は吾が日本國を以て未だ野蠻國と見做し、所謂文明病たる神經病はなきと云ふ即ち侮辱的の言語です、諸君文明國を以て自任する歐洲人と雖斯る愚物があります、殊に醫者にして尙ほ此の儚な人物があります、御承知の如く歐洲殊に獨逸シユロイツ等では醫者と云へば盡く大學卒業者です夫れすら斯る人物があります、尤も此れは日露戰爭の以前でありました。

諸君此れより尙ほ甚だしき話があります私の友人が料理屋で彼國の人數人と飲酒中、一人が突然友人に問て曰く、汝の國に鐵道はある乎と、友人も何んと答ふる處を知らず恰も此の際一方で紙の話を致して居りました故、友人は直ちに此話を利用して答ふるには貴君の尋ねらるゝは吾國に紙にて作りたる鐵道はある乎と言ふ意味なるやと反問したるに一座大に笑つて他談に移つたさうです、何れの國にも馬鹿と言ふものはあるのですが、併し吾人が歐洲に在りて日露戰爭の前までは此れに類似したる愚物には屢々遭遇しました、私が或る時彼國の人に尋ねましたに貴君等は何故に吾國の事情を知らぬか又歷史は讀まざりしやと申しました、其人の答ふる樣一兩度歷史を讀んだ位では忘れてしまふ、又日本の事は新聞に出ぬ故に知らぬと言つて居ります、成程新聞には日露戰爭前には稀に一二行東京の電報が載せてありました丈けです、御承知の如く一語の電報料が數拾圓を要しますから餘程必要なる事項に非らざれば音信は致しませんからでもあります。

話らぬ前口上が長くなりましたが、彼國の所謂文明病は吾國にも既に年久しく有り余つて居ましたのです乍併彼國でも神經病精神病と言ふものは國の進歩に伴ふて年一年と增加することは統計上確定せられて居ります

吾國に於ても神經病も精神病もありますが彼國に比すれば一般に尠なきは事實にて又吾國の現時と鎖國時代と比すれば素より非常なる差はありませう。

神經病と申しますと中々廣き意味でありまして例令ば先頃流行致しました腦脊髓膜炎とか又は脚氣の如き傳染病も神經病の一つでありますが、私は本誌には神經病の中の所謂神經質と云ふ題で申上げやうと思ひます。

芝公園東京勸業館內

大割引大販賣

傘履物商 小川屋商店

東錦繪草紙類 錦木堂

組糸製造販賣 栗原商店

美術陶器 番茶器 島村商店

打刄物商 松本商店

西洋小間商 間宮商店

銅鐵器具 アルミニユーム器 眞杉商店

正札附格安ニテ販賣致シマス

此廣告切拔キ御持參ノ方ニ限リ右七商店ニテ一割引ヲ以テ販賣致シマス

御買上品ハ市內配達無料

常に暖爐の必要無き家にも病氣療養具として必ず空氣暖爐を備へ置べき事を記憶せられたし

◉專賣特許◉ 空氣暖爐

◉本器は防寒用として何れの室にも便利なれど肺病其他寒氣を厭ふ諸病に本器の利用は最も必用なり

◉別して感冒及小兒の百日咳等には本器を適度に應用せば速に全治する事實に妙なり

◉空氣療養の諸病に特効ある事は諸大家の定說にして今更喋々を要せざるも寒中の諸病寒冷なる空氣の呼吸は其害最も多し(本器明細書御報次第呈す)

特製一個金六圓八拾錢(他ヘ送り荷造箱代一個金四拾錢)

並製一個金五圓九拾錢(東京大阪市內御報次第持參す)

東京市淺草區諏訪町一番地(長電話下谷八三一番)

大阪市南區安堂寺町御堂筋(長電話東四六二番)

小原商店 本店 支店

TAKA-DIASTASE

タカヂアスターゼ

世界最大の製藥工場

パークデビス社は完全なる設備を有する世界最大の製藥會社にして、上圖は其デトロイトに於ける本社工場の全景なり。此他同社は加奈陀及英國に同一規模の分工場を有し、世界の醫家が要求せらるゝ總ての醫藥品を製造す。タカヂアスターゼはパークデビス社の製品なり。

高峯氏發見消化新劑

完備せる裝置の下に熟練なる技術者に依り、製出せらるゝ本劑は品質純良、每瓶强度均一にして、又其効力永久不變なり。醫師及藥舖諸彥!模造品製造者の誇大なる虛僞的廣告に誤らるゝ勿れ、世上本劑以上の賣品なきは歐米及吾多數醫學大家の實驗報告に徵し確認せらるべし、需用者は必らず高峯氏タカヂアスターゼと指定せられよ、本劑は紛末錠劑水劑の三種として發賣せり各地藥舖にて販賣す

代理店 東京南茅場町 三共藥品合資會社

女鑑を讀まざるものは時代後れの婦人なり

女鑑

每月一回○第十八年第一號○四十一年元日發行

破天荒の大改良

てよだわ言葉の改良 柳原伯爵 三輪田學士

▽胃腸の養生法 長與博士 ▽女子の本分 白鳥博士

▽幼兒と過營養 加藤博士 ▽諸人種裝飾 坪井博士

美しき顏 成瀨仁藏 ◉迚も相談に乘れぬか 添田博士

裝(口繪) 繪葉書 玉枝(淸方蕉園) 畫(寫眞版)十數葉

▽家庭心理談 高島平三郎 ▽犯罪の動機 石井判事 ▽新春御馳走 藤澤典獄

閨秀畫家十七氏の繪畫は各種の色刷として異彩を放つ

▽家庭と新年 村上博士 ▽處世苦心談 梅村小吟

▽子女養育談 松井夫人 ▽我理想家庭 中川愛氷

小說 歌留多會 半井桃水 ◉母の責任 鳩山春子

趣味ある大懸賞 ◉甲 明治四十一年二月五日發行官報第三頁の字數を豫言す 一等 純金指環 二等 七寶燒女持懷中時計 三等以下三百餘の景品あり ◉乙 判じ繪にて、解答者には勸業貯蓄債券 其他百餘の景品あり、詳細は本誌を見よ、(解答は本誌挿入の用箋)

東京々橋區築地二丁目 國光社 發行

・册十 定五錢 價十十 一七二 册錢二 金六册 廿册圓 錢一十 三圓錢

Digitized by Google Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

恭賀新年

愛國婦人

應募俳句　冬季雜題

內藤鳴雪選

天　京都　山本靜紅
須磨に來る人も尠し冬の月

地　佐渡　中川とら子
乳呑子の泣く時なれや夕千鳥

人　京都　山本千代子
おびたゞしき瀛車の烟や雪野原

○

谷川や蟹の眼に散る木の葉　岡山　菅昌子
凩や村の一揆のさわがしき　門司　安藤ゆき子
凩や瀧が如き峯の月　同上　同人
凩や雲吹寄る琵琶の湖　同上　同人
冬枯て峠の茶屋はとさしけり　岡山　西村てる子
松たてゝしめはる家も見ゆる哉　同上　同人
袖笠に人の通るや煤拂ひ　三重　荘司友枝
寒梅の煙筒近く咲きにけり　同上　荘司小久
吹雪してものも得云はぬ繩手拭　同上　荘司種子
笹鳴きやいつか止たる雪の今朝　東京　伊矢野孝子
南天の實に日のさすや雪のまと　山口　末田竹子
肩上の取れて春まつ晴衣かな　東京　鶴岡とく子
歌反古の未の年も暮れにけり　同上　同人
魚提て歸る浦路や冬の月　愛知　下郷すゑの
小春日やまふしさうなる綿帽子　大分　桂木清閑女
急きつゝ仕事して居る寒さかな　京都　君子
霰を打つ音に時雨るゝ庵かな　三重　鈴子はる子
太閤の浮田に對す火鉢哉　三河　市川はな子
思はすも一ッ火桶やいとことち　愛知　石川類子
文を讀む窓にかほるや冬至梅　同上　下郷すゑの
寒き夜の窓の下行く柝聲かな　紀伊　西山きよし
寒月に栗鼠の聲きく楢かな　青森　吉田安子
榾たいて語る夫婦や玉あられ　石川　小坂夏子
妹山は月夜背山は時雨かな　三重　東はるゑ
寒聲や雪にきらめく朝月夜　東京　彦坂たき子
初雪や葱の畑に古むしろ　京都　よれ子
ほしき子も出來ずと行や未の年　同上　古川よれ子
この寒さ禪寺に人の修行かな　同上　同人
辻占の聲も枯ゆく夜寒哉　靜岡　朝子

社告

廣告輻湊の爲め本號には大口鯛二氏選歌、堀内新泉氏小說女心その他豫告の記事十の一だも掲げ得ず、こゝに謝告し置くもの也

恭賀新年
大日本女學會は新學期を開き會員を募集す
●本會會費は普通科一箇月金二十五錢高等科同金五十錢入會金を要せず
●十一月廿五日高等科初卷發行
●會則希望者葉書にて申込あれ
東京青山原宿　大日本女學會　電話新橋一八三〇　振替貯金一一八三六

畏き邊りの御料に召させ給ふ
完全爽鉛　高貴御化粧料
御料　御園白粉
ねり製　御園白粉
水製　御園白粉
こな製　御園白粉
洋風化粧クレーム　御園の蕾
高尚化粧水　御園とき水
御顔ふきしろい粉　御園なでしこ
濃厚化粧水　御園四季の花
高尚香水油　御園香油
高尚香水　御園香水
高尚はみがき　御園齒磨
製造元　胡蝶園
發賣元　丸見屋商店　東京日本橋區橘町四丁目　電話浪花四四番

Crème Simon

登錄商標

皮膚の營養上衛生美顔　容貌の美のために特に薦撰する良劑「シモン、グリスリン、クリーム」

「シモン　クリーム」は近頃の製造品ではありません久しき以前より御使用と御評判を受けて居るのであります

シモン　クリームは一種の强壯劑と皮膚を柔くする藥劑とを配合して製造したる衛生上無比の良品であり升

シモン、クリームは皮膚を白くし且つ滑かにして表面がすべ／＼となり又天鵞絨の如く艶麗ならしめ又快よき香氣を發します毎日御化粧の時に御使用になれば何時もつやつやしき容貌を保たれます

「シモン、クリーム」はヒビ、アレ、日にヤケ、汗も、ニキビ唇のわれ、霜やけ、赤ら顔、又は毒蟲に刺された時にお塗りになれば僅かに少時間で其効能が分ります又髭剃の後や小供衆に塗抹しますとすべ／＼として大變氣持が又美しくもなります

本品は販路が益々擴張されるに從ひまして僞物が多く市場に出て居りますから御求めの際は「シモン、クリーム」「鉛なしろい」石鹼共特に登錄商標を御確めの上御購求願ます
東京及大坂三越呉服店を始め各地の洋品店、化粧品店に販賣致して居ります

日本代理店　横濱市七十番　エー、ハイム商會

和服も縫へる　素人向　家庭用
☞最新式の種類到着
シンガーミシン
減價月賦大販賣　更に特減即金賣

明けて目出度き年賀の席で友達同志のミシン問答……
芳子『あなたの御宅では、シンガーミシンを御使ひになつて居ますがあれは實用的なもので御座いましようか
春尾『ハイ、中々間に合ひますよ、先達てネ、ネル地を買つて、シヤツとヅボン下とを縫ひましたが、原料が僅か三圓八十錢で御座いましたよ、市中で仕立てたものを買へば、六圓以上取られる所でしたのに、幸ひ此の冬休暇中シンガー會社の教師に宅へ來て貰つて色々と教はりました」

●裁ち方縫ひ方ミシン使用法　無報酬出張教授　東京及び横濱市内
▼明細書　御申越次第無代送呈す
▲從來の普通賃貸法――其儘繼續致し居候……

シンガー裁縫機械會社
銀座三丁目　東京支店　電新三四六六

恭賀新年

愛國婦人

元旦（短文）　備後　天野園子

お美し、花と見えし紅の雲ちりて いつしか深紅に染み、空よりきら〳〵しき初日の姿顯れぬ。祝ふべし、いざ諸共に、今日を樂しく遊ばんかな。千門萬戶、松はよろこびを含みて、いよ〳〵青く、旗は旭に映じて、いよ〳〵紅に、空には凧の聲高う、地にはてまりの歌面白し。歩みいづる己が足も心も空に勇み勇むなる。海には一條の金蛇踊り、沖遠く新潮湧くよ。松の聲、あら浪の音面白く聞ゆく朝や。きかふ人の面は、云ひしらぬよろこびを秘むらん。行なべてのも神々しく動き、鳥も歌ひ花も笑む。生とし生けるものは云はずもがな。野も山も、あゝげによろこびみち〳〵たる初日の長閑さや何にたとへん。

△愛國婦人發行所の忘年會　去る十二月二十日愛國婦人發行所の主唱により愛國婦人會及び雜誌『愛國婦人』に對し常に關係淺からざる諸通信社員及び『愛國婦人』廣告取扱者の重なる人々を愛國婦人會樓上に招き忘年晩餐會を開きぬ、當日の概況を此處に掲ぐれば先づ午後五時を以て食堂を開き宴半にて愛國婦人會會計監督佐藤正氏は本夕の宴を張れる主意及び次第を述べ通信員に對しては愈よ互ひに意志を疏通し誤解を避け本會の精神の在る處を益々世に明らかにし以つて發展擴張の擧を助けられんことを乞ひ發行所關係者に對しては今後一層の奮勵を求めて挨拶を終り、次で下田主幹は『愛國婦人』の精神のある處を述べ更に其の發展の希望等を演述して席に復し、引きつゞき來賓通信各社員の挨拶ありて、宴會は終りを告げ、續いて餘興として福引數番あり笑聲樓上に滿ち〳〵しが、午後八時半和氣靄々の裡に閉會せり。當日福引の秀逸なりしもの二三を擧ぐれば『恭儉己を持し』＝愛國婦人會の經費－節儉＝石鹼『博愛衆に及ぼし』（愛國婦人會の事業）－すくふ＝救ふ＝コーヒー匙『愛國婦人會の會費』（半襟一ト掛－縮緬半襟一筋）等なり。

恭賀新年　**醫院案內**

◉**病院開設**
從來京橋區南鍋町にて診療の處病院落成に付き自今當所に於て診療を爲す
皮膚科、梅毒科
泌尿生殖器科（生殖器機能障害）
外科一般
院長醫學士　大野豐太
副院長醫學士　三原新太郎
診察、前八時至十二時、後二時至五時
京橋區木挽町五の三
農商務省西側
電話新橋四二三一
大野病院

◎◎**婦人科小兒科專門**　午前宅診　午後往診
東京市麴町區飯田町四丁目九
女醫鷲山彌生

水原産科婦人科病院
○神田猿樂町十二番地
○電話本局千八百九番
○院內ニ産婆學校アリ

內科外科産科
婦人科耳鼻咽喉科
皮膚科梅毒泌尿器科　各專門分擔
芝愛宕町　**東京病院**　電話新橋（二六四）（二六二〇）
院長　醫學博士男爵高木兼寛

內科一般　東京神田美土代町三丁目十九番地
午前宅診午後往診　**板垣亨**
電話本局貳千九百七十番

院長醫學士　**鳥山南壽次郎**
鳥山內科院
京橋區鎗屋町十一番地
電話新橋千七百四十六番
午前診察
午後往診

神田區西今川町三番地（電話本局三〇一九）
內科病特に腦脊髓神經疾患
院長ドクトルメヂチーネ　**峰秀世**
峰內科醫院

午前宅診午後往診　入院隨時
內山小兒科醫院
淺草區下平右衛門町十七番地
柳橋通り（電下二三六五）

小兒病診療　宅診午前　往診午後
淺草區福井町貳番地
醫學士　**內田愼太郎**
◉電話下谷七一八番

岩佐病院　日本橋區蠣殼町二丁目廿三番地（電話浪花六九七番）
診察時間　自午前九時至正十二時
內科婦人科　院主　岩佐純
內科　院長ドクトル　岩佐新
（獨逸留學中）副院長醫學士　高田壽
外科　醫學士　山村正雄
産科婦人科　醫學士　西村漸
腦病脊髓病　醫學博士　土田卯三郎

産科婦人科專門
診察毎日午前　入院隨時
淺草區左衛門河岸
電話下谷一〇二八
岩田病院

◉**婦人病專門**　院長　櫻井克己
芝明舟町十九虎門外宮樣前
電話新橋三三二四
櫻井醫院

○**院長**ドクトル　**木村順吉**
京橋卅間堀一丁目角（電話新橋二六七〇番）
婦人科産科　木村病院

齒科治療ドクトル　**齋藤清太郎**
麴町有樂町帝國ホテル向（電本千五百十九）

院長診察月、水、金、午前、松田醫學士診察火、土午前、窮者施診火木午前入院診斷後隨時應需
松田、林、兩副長ハ目下當院ニ在勤、
電話本局八八八（病院用）八九八（私宅用）
東洋內科醫院
東京神田區駿河臺鈴木町二番地（御茶水橋畔）
院長醫學士**高田畊安**
神奈川縣相州高座郡茅ケ崎村濱（停車場所在）
南湖院
河野、中村、兩副長は目下當院に在勤
院長診察土曜日午後〇同時窮者施診
副長診察月、火、水、木、金、土、午前
〇入院診斷隨時應需

◉午前　自宅　神田多町壹ノ八
◉午後　岩佐病院　日本橋區蠣殼町
腦病脊髓病
神經衰弱、ヒステリー、中風癲癇
神經痛運動障害等
醫學博士　土田卯三郎

産科婦人科　楠田病院
東京日本橋區濱町三丁目七番地

院長　醫學博士　榊順次郎　婦人科産科毎日午前診察
副　醫學士　久保德太郎　婦人科的外科外國留學中
副　醫學士　田代謹二　婦人生殖器病泌尿器病及內科一般火木土午後診察
◉施診火木土自午後一時至二時
婦人科産科　榊病院
麴町區三番町三三（電話番町三九五）

小兒科專門
瘰癧症（腺病）小兒貧血症、結核性腹膜炎、腹水、（脹滿、脾疳）小兒皮膚病、百日咳、
小兒ノ虛弱體質ハ前記ノ症ニ罹リ易ク動スレバ不治ニ陷ル余ハ獨逸留學中研究セシ體質强壯法ヲ以テ斯病ノ豫防及ヒ治療ヲ施ス
ドクトルメヂチーネ　**長井岩雄**
東京日本橋區數寄屋町一（電本百八十）

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

宮内省御用達

最上醤油之元祖

上ヤマサ

開業二百六十三年

釀造元 下總銚子町 濱口合名會社

振替貯金口座五〇二一番

謹賀新年

例年の通新春御餘興として來る六日ゟ同十五日迄

新發明に係る自働電機應用福引の趣向に據り大賣出し中毎日左の景品を贈呈仕候間御慰み旁々陸續御來店被成下度偏に奉希上候

大賣出し中

毎日の景品數

一 金五拾圓(當店切手一枚)壹個
一 金貳拾圓(同上)壹個
一 金拾圓(同上)貳個
一 金五圓(同上)五個
一 金貳圓(同上)拾個
一 金壹圓(ハンカチーフ廿打 羽二重裏地廿五反)五十個
一 金五拾錢(手拭五十反 皮製紙入五十個)壹百個
一 金廿五錢(絹ハンカチーフ二百五十枚 ガマグチ二百五十個)五百個
一 金拾五錢(タオル六百六十五枚 石鹼六百六十六個)千三百卅一個

以上合計貳千個

以上の景品は當日御買上金額五圓以上の御仕拂被成下候に對し福引入(もなか)壹個進呈致し金五圓を増す毎に壹個宛増呈可仕候◎右(もなか)中の紙片に記しある景品は直に現品と御引替申上候◎又金額五圓に滿たざる御買上げに對しては福引法によらず手拭一筋宛進呈可仕候

四十一年一月元旦

東京市日本橋

白木屋呉服洋服店

改良婦人もゝ引

定價中長八拾五錢大長九拾五錢色白、赤、桃色、鼠、送費内地二足迄拾貳錢五足以上當店持

東京日本橋區よきや町十番地(電話浪花二三四八番)

製造發賣元 佃屋シヤツ店

ツクダヤシヤツ店

特約販賣店 東京々橋區南傳馬町貳角 横濱市伊勢佐木町壹 岡田屋商店 (電本局一八二六)

(東京勸業博覽會賞牌受領)

こは最精選のネル地製にしてよく腰部を溫め腰巻を附隨し股部の工合等御召心地のよき事は在來の婦人股引と比ぶべくもあらず衛生と實用に適し御婦人方御召料として眞にてき當なる御品なり

妾事薄毛にて種々藥を試しも効なく醫博士令夫人所迄より奇藥を得薄毛も濃くなり生へざる毛生し嬉さの餘り困る方に分與せしに三百有餘の禮狀を受け不思議のまゝ尚困難者へ告ぐ二錢郵券添御照會あれ……

東京々橋越前堀一ノ四 河村愛子

富士一周	國府犀東 平福百穗	定價一圓半 郵税十二錢
美感新論	故久保田米遷翁著	價七十五錢 郵税金六錢
海國日本	伊藤銀月述	價六十五錢 郵税金八錢
人體畫法	川崎安 新著	價九十五錢 郵税金十錢
歌集靜夜	文學士上尾柴舟著	價金五十錢 郵税金六錢

發行所 東京京橋南鍋町 隆文館

謹賀新年

當店儀明治四十一年一月一日より大丸下村呉服店に關する權利義務を繼承し併せて營業の全部を讓受候事に相成候に就ては一層勉勵可致は勿論益々御得意樣の御便利を謀り可申候間自今倍舊の御愛顧を蒙り度此段伏て奉願上候也

明治四十一年一月

株式合資會社大丸呉服店

業務執行社員 下村正太郎

杉山義雄

當店(京都本店同所、北支店、東京支店、大阪支店、名古屋支店、神戸出張所)今般都合に依り明治四十年十二月卅一日限り一切の業務を株式合資會社大丸呉服店に讓渡し候に付き茲に謹で從來の御厚誼を鳴謝仕候

明治四十年一月

下村呉服店

本支店所在地

東京本店 東京市日本橋區通旅籠町
大阪支店 大阪市心齋橋南一丁目
京都支店 京都市松原通り御幸町
名古屋支店 名古屋市本町五丁目
神戸出張所 神戸市兵庫鍛冶屋町

株式合資會社 大丸呉服店

常に多數の流行柄た寫眞にて御紹介いたす爲め毎月雜誌衣裳を發刊いたし居り候に付御注文の節は何時なりとも御申遣し次第直ちに贈呈御覽に入れ可申候間多少に不拘御用命の程希願上候

本品は畏れ多くも

常宮殿下
周宮殿下
富美宮殿下
泰宮殿下
御使用品

高等香油

チエリーオイル

紳士貴婦人令孃用

千九百七年式巴里流行

乳狀薄化粧料

フエスクリーム

珍ら敷新輸入品

最も日本婦人に適し皮膚の營養滑澤に實効ある佛蘭西新式煉白粉代用品

本品は顏を洗ひ乾きたる後少量を萬遍なくぬり摩擦すれば實に云ふも云へぬなめらかによきつやを出し香氣よくあれを防ぎ白粉やけ皺のよる憂なし又ゑりの汚れることなき斬新良好なる滿化粧料として紳士貴婦人間に高評あり

定價一瓶三十五錢全國到る所の賣藥小間物化粧品店にあり

東京市日本橋區本町二丁目 チエリーオイル本舗

發賣元 高橋初次郎

振替貯金口座一〇九三番 電話長本局四一一三番

Digitized by Google
Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

恭賀新年　不相變御愛顧を希

東京銀座壹丁目
木村屋ぱん店
電話新橋四一三九番
芝公園勸業館内出店
横濱伊勢佐木町支店

カメリヤ洗粉

●容貌の美醜は化粧法の巧拙如何にあり

艶麗比花に優り純潔雪よりも潤清く高雅優秀なる美貌は最新の化粧法により配劑せられたる高等美身料カメリヤ洗粉の常用によりて顯はる

定價
大瓶壹圓廿五錢
小瓶同　十五錢
大袋同　二十五錢
小袋同　十三錢
鑵入同　十三錢

發賣元　東京　大阪　小林富次郎　天津　漢口　上海

謹賀新年

昨年末市區改正の爲筋向に移轉仕候間不相變御愛顧の程奉希上候

めりんす友仙
おめしもすりん
新形な物品々

東京日本橋區人形町通り
赤のれん
おかもとや

謹賀新年

滋養　純粹　殺菌
牛乳
麹町區飯田町
北辰社
電話番町五五四

北辰社牛乳は最も滋養に富む
明治十九年二月十四日一等賞を受く
明治十九年二月十四日一等鑑定狀を受く

北辰社精製のバタ－は味佳良

恭奉賀新年
本年も倍舊御ひいき偏に御愛顧希上候
東京神田鍛冶町
[illegible]

二共進會銀牌受領
宮内省御買上ノ光榮ヲ得タリ
香油パール

日本橋　發賣元　東京平尾賛平商店

▲▽▲▽▲▽
大塚楠緒子著
晴小袖
新海竹太郎装
▽▲▽▲▽▲
装訂最美
定價金八拾錢
郵税金八錢
京橋南鍋町一丁目
隆文館

THE GEM
ゼム

衛生家必携　懐中良藥

新年と「ゼム」

○みとりこき門松と共に美くしき新春をむかへ芳香馥郁たるものは「ゼム」なり

○屠蘇に醉ひ電車、俥、に搖られて心地惡しき時精神を爽快ならしむるものは「ゼム」なり、

○新年宴會に酒、煙草を過し惡醉に苦しむ事なくその味を美ならしむるものは「ゼム」なり、

○歌留多會、福引會、及び新年の交際社會に優雅なる紳士淑女の必ず携帶すべきは「ゼム」なり、故に「ゼム」は年始回禮者の缺くべからざる者なり、

新年と「ゼム」

定價七十五粒入十錢百六十
粒入廿錢四斤卅粒十五十錢九
百粒入壹圓容器入廿錢

東京馬喰町二丁目　愛國堂山崎榮三郎
大阪高麗橋二丁目　山崎兄弟商會

東京勸業博覽會三等賞受領

▲正定價引なし

營業品目
特許籠各種●特許撰風呂
特許ランピ●特許水瓶品
實用暖爐●鍋釜品々

日本橋區蠣殻町二丁目十五番地
神田泉町通稲荷町十八(電話浪花一一七七番)
名和本支店

坪井理學博士七著述
婦人と小兒(全一冊)
△定價金八拾錢▼△郵税金八錢▼

半ゑりは神田
赤のれんに限る
電話本局二八五三
神田表神保町壹番
出店
新橋博品館階上

恭賀新年

羽根蒲團
毛布膝掛
小兒帽子
リボン造花
手袋沓下
西洋小間物

新年新形。絹ショール
ボアー・マフ

東京牛込神楽坂下
朝日堂
電、番町一六九九

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

東京市麴町區錢瓶町（常盤橋内）
日本興業銀行
資本金壹千七百五拾萬圓
電話本局 一、二八〇〇番 三、三〇〇番 四一〇番 三七一番 （特）一〇二番

營業科目
一 擔保附社債に關する信託業務
一 有價證券其他貴重品等の保護預
一 有價證券の賣買元利金の支拂及び取立
一 地方債、社債、株式等の發行募集事務
一 各種の信託事務
一 國債證券、地方債證券、社債券、株券の擔保貸付及手形の割引
一 國債證券、地方債證券、社債券の募集又は引受
一 法律規定に依り設定したる財團を抵當とする貸付
一 定期預金、特別當座預金

東京市日本橋區通一丁目
合名會社 森村銀行
電話（特）本局六七三番 電話本局四九八番
定期預金 六ヶ月以上 年五分五厘
當座預金 百圓に付日歩 八厘
小口當座預金 同日歩 壹錢壹厘

大俵炭
大徳用 山出シノ儘叺入堅炭、土釜、切炭、壹俵ハ拾貫目内外入
目方ウリ
市内ハ無賃配達
戸塚商店
（電話本局三二〇八）
神田三崎川岸

緑髪
小川未明著 半幅百德書
新刊
定價金九拾錢 郵税金拾錢

東宮妃殿下御用品
宮内省侍醫局製藥所御試驗濟

完全無缺の優等香油
毛髮の營養に富み且つ衛生に適し芳香優美の完全せる優等香油なり
紳士貴婦人令孃御愛用好評
白椿油製優等香油 しら井油 定價大壜金四拾錢 小壜金廿五錢
同上特製優等香油 しらぎく 定價壹壜 七拾五錢
精良香油 新つばき 定價大壜金廿五錢 小壜金十五錢
發賣本舖 東京京橋桶町 白井椿堂

日本第一の大勸業場
本場の特色
あらゆる物品を最も格安な正札附にて陳列販賣し市内ハ無賃で配達致します
物品切手を發賣致居[illegible]
館内[illegible]
[illegible]引換
[illegible]

報德會編纂
報德の研究
定價金六拾錢

資本金千八百萬圓
東京京橋區木挽町
株式會社 十五銀行
電話新橋 三三〇〇番 一五三〇番 三一九三番
同日本橋區新乘物町
同 日本橋支店
電話浪花 一九〇一番 三二七四番 三五〇八番
利息
一 定期預金 六ヶ月以上年五分
一 當座預金 日歩七厘以下
一 特別當座預金 同 壹錢

實用新案特許

二枚折 藤井式衣桁
定價 甲 六圓 乙 五圓五十錢 丙 五圓
東京市麴町區三番町廿九番地
特許物製造販賣 藤井兵太郎

東京市日本橋區通三丁目
第一生命保險相互會社
電話 本局 二三七三 本局 一七三七

リウマチス 全治秘訣
妾儀多年リウマチス病に罹り百方手を盡すも更に効なく困難の處不思議の神靈の奇効に依り忽ち根治全快し喜悅に堪へず依つて人助のため同病者に事實を告げ救濟せんとす御希望の方は郵券二錢封入申込次第詳細に御通知申上可く候間御遠慮なく申込あれ
東京府下大森停車場東大畑 河奈とめ女

淀殿第一編……定價七十五錢 送料金八錢
淀殿第二編……定價七十五錢 送料金八錢
淀殿第三編……定價金一圓 送料金十二錢
塚原澁柿園君著
塚原千里女史畫
京橋隆文館發行

讀賣新聞批評
著者獨特の書きかた何人も眞似のしやうなし、美貌花の如き十六歲の乙女茶々の、秀吉に見出されて其の寵を擅にするに至るの發端より淀君の生涯を描し、彼女が負け嫌ひの强情の、一風變りたる女性たるを現して趣味更に深し。

東京朝日新聞批評
老練圓熟時代小説を描出して當時殆んど匹儔を見ざるは塚原澁柿園の手腕なり、淀殿の一編、内は精悍娼嫉、外は妖艶阿娜たる淀君を描き豐太閤の磊落豪邁、石田治部の機智巧慧局待從の細心苦衷等皆よく人格現はれて活躍し、作者の才藻縱横に走る。

新春家庭の絕好讀物

女學世界
一月一日初刷 八卷 第壹號 正價廿錢 郵税二錢五厘
●井上大勳位の家庭
●デーリーメード 永田美知子の生活
●九十九媼の長命實驗談
●衛生百人一首 評釋
△威嚴ある女性
△新年の感 女學記者
△婦德の涵養
△妾の半生 女史
▲繪葉書 太田三郎
▲舞初め 上村松園
▲晴れ姿 榊原蕉園
▲初音 加藤南山
▲猿襲 狩野探幽
▲福壽草 河崎蘭香
▲筆蹟 多田令子
▲彈初め 富崎與平
三 △令孃日記
口繪 △正月物語
△新春三題 杉浦翠子
△春の遊戯 竹貫直人
○毎月一日一回發行
●前金（四冊八十三錢 八冊一圓六十一錢 十六冊三圓十二錢）郵税共

▼女子をして家庭の實務を熟練せしむる法 羽仁もと子

新年大附錄 百人一首歌かるた（百人百種の書分け）一條成美密畫

少女世界
一月一日初刷 三卷 第壹號 正價十錢 郵税一錢
▼おとぎばなし みどり草紙 巖谷小波
口繪 追羽子（彩色石版）
松に鶴（彩色石版）
●少女唱歌 新年 田山花袋
●見眞似姫 石橋思案
△少女少訓 巖谷小波
△少女の服裝 鳩山春子
△都の正月 岡村濟山
△つばき山 永富小學
△無人島の正月 江見水蔭
△松の内日記 濱田館嶂
△大德寺の燒香 神賀[illegible]
△水仙の話 石坂[illegible]
●若水物語 竹貫直人
●猿字彙 武田櫻桃
●胡蝶 蝶ゝ形 三木とみ子
●遺花の話 福壽草 眞崎やえの
○毎月一日一回發行
●前金（四冊四十二錢 八冊八十三錢 十六冊一圓六十六錢）郵税共

新年大附錄 少女出世雙六 小波山人の新案で面白き事天下一品 鏑木淸方密畫

東京日本橋本町 博文館 郵便振替貯金口座二〇四番

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

恭賀新年

我國に於ける流行の源泉

デパートメントストアの元祖

三越呉服店

謹賀新年

洗用ワッセル

◉此ワッセルは油じみ油あか如何なる汚れでも揉ずに必ず落る石鹸曹達の如く布を損傷せず染色を褪さず費用と手數を省く經濟上有利なる日用品であります
◉用法は湯一升に二匁（小杯へ半分餘）の割合にて溶解し洗濯物を凡二時間浸し後湯又は水にて洗へば自然に脱ますシャツの如きは（拾貳号）入一本にて貳百枚は必ず洗へます御婦人の髪は一匁五分を一升餘の湯に溶解してかもじを洗ふ樣に揉ずに洗べし左れば玉手で洗た樣になります又食器臺所道具の拭き掃除にも有効てす

定價　拾貳号入　金拾五錢　六号入　金八錢　送入二錢

東京市京橋區三十間堀三丁目　電話新橋一七一二
英國製ワッセル日本一手販賣元
御肌洗びこ芳香ワッセル製造元
三友商會

胃病良藥　太田胃散

見よ天下翹望の書

東京春陽堂初刷

後藤宙外氏主幹　新小説一號	實價貳拾五錢　郵税三錢
夏目漱石氏著（小説）虞美人草	實價一圓五拾錢　小包料拾貳錢
泉鏡花氏新作（小説）草迷宮	實價七拾錢　郵税八錢
高濱虚子氏著（小説）鷄頭	實價七拾錢　郵税八錢
二葉亭主人著（小説）カルコ集	實價六拾錢　郵税六錢
幸田露伴氏著（小説）玉かつら	實價七拾五錢　郵税八錢
宮崎三昧氏著　日本豪傑譚	實價貳拾錢　郵税四錢
向陽斑山兩氏編　家庭お伽噺（臨時）	實價拾六錢　郵税四錢

遲塚麗水新著
小説　舞扇
定價金七十五錢　郵税金八錢

最新流行
美術蒔繪櫛笄
諸小間物類
束髪用品
和洋化粧品
香水石鹸
東京日本橋通一丁目
よしや
浪花一四四六

謹賀新年
尚本年も倍舊御愛顧を乞ふ

謹賀新年

舊年中は一方ならず御引立に預り難有奉謝候
尚本年は諸事改良一增勉勵仕候間倍舊御愛顧の程偏に奉懇願候

戊申元旦

松田幸治郎敬白

東京銀座尾張町
白牡丹本店
電話新橋五五一番

最新流行せる
羽織紐
帯締ら
其外組糸一式
東京日本橋
組紐舗
電話浪花一五〇六
振替貯金一一八五六

東京市日本橋區小舟町三丁目
株式會社　第三銀行
電話浪花四〇三
浪花四五一番

預金利子
定期預金　六ヶ月以上　年五分
當座預金　百圓ニ付日歩　八厘
別口當座　同日歩　壹錢
全國送金無手數料
其他銀行一般の業務取扱便宜可申候

徳田秋聲著（新匠美本）
小説　女心
定價金六拾五錢　郵税金八錢
東京京橋南鍋町一丁目
隆文館

愛國婦人廣告取扱

京橋區數寄屋橋外　弘報堂
神田三河町　博報堂
京橋區南紺屋町　一星社
京橋區南鍋町　秀逸社
日本橋區上槇町　萬年社
日本橋區箱崎町　濤風舍
京橋區宗十郎町　正路喜舍
京橋區日吉町　帝國通信社
同區弥左衛門町　二
同區南鍋町　同
京華社支店　廣告社

明治四十一年一月五日發行（毎月五日廿日二回）（定價金三錢一ヶ月六錢郵税不要）廣告料一行金六拾錢　發行兼印刷人　山澤俊夫　編輯人　大久保高明　發行所　東京麹町區飯田町　愛國婦人發行所　印刷所　東京牛込區市ヶ谷加賀町　秀英舍工場

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

附錄　愛國婦人會記事

（本號當附錄說明）

○皇孫殿下

迪宮裕仁親王殿下　御六歳十ヶ月
淳宮雍仁親王殿下　御五歳七ヶ月
光宮宣仁親王殿下　御三歳一ヶ月

天榮ゆ日の御子の御裔なる我皇室は眞榊の五百枝と繁りて根は千曳の巖と堅く目出度き限りなるが中にも第一皇孫迪宮殿下は御齢の重なるに連れ春の日に育つ若草の行末頼しく生ひ立たせ玉ひ材幹も尋常に勝れ玉ふ如く御才智も並の小兒の匹におはさねば栴檀は二葉より香はしき譬喩を眼の當りに見て御付添の面々こよなく目出度がり奉るが勇武を好み玉ふ御血統を受けさせ玉へばにや近頃は歩兵の持てる小銃と劍とを殊の外好ませられ毎晨起き上り玉ふや劍よ銃よと近侍の者の捧ぐる玩具とは見ぬ精功なる武器を腰に肩に掛けられて霜凍たる御苑の庭の寒さを厭はせられず小さき御體を一二と呼び聲立てつゝ動かされ歩兵の操練の眞似して玉ふ其怜悧しき御振舞は見る者皆目を側てゝ皇孫の御行末を推し計り參らせ我皇室の萬々歳を祝はぬ者こそなかりけり赤阪御所の庭には内を護る警手あり晝といはず夜といはず時を定めて御所内の各所々々を巡邏して歩くが折節其姿を皇孫殿下が見出し玉ふや俄に歩行を止め玉ひて肅然屹立し玉ひ嚴かに捧げ銃をなし玉ふ警手は尊き方に思ひがけなき敬禮を賜りて恐懼措く所を知らず冷汗肌を濕すとはいふがそも御幼少の皇孫殿下は何所奈何なる折に捧銃の禮を知り玉ひしや其御賢明しさは勿體なき許りなり又何故に警手にかゝる事をし玉ふかと聞くに劍を提げし者は皆えらき者なり劍を帶べる者には必らず捧銃の禮を施すべき旨可愛げなる御口元より御說明あるに至りては人々益々威厳の外なかりきと又青山御所の一隅に御農園あり畑の物を作り新鮮の野菜果實を供へ奉る事になりて居れるが今年は霜の加減か大根人參牛蒡の類ひ殊の外よく育てるに活潑なる皇孫殿下はいつしか大根曳の御遊興を覺えさせられて霜白き畑の土を踏て御手に餘る大根を曳いす土だらけの白き大根を高々と振り廻して嬉遊し玉ふ御擧動の活潑さは御健康の程もさこそと仰がれぬ此の農園より御所迄は大分距れるに庶人が曳き拔いた大根を運ぶを見て之れを面白しと御幼少の心にかなひしと見え我れもなさんと此の頃は御學友及各宮殿下の若君など集め玉ひ朝まだきより農園に突貫して曳きぬきし大根を我一にと掛聲勇ましく運び玉ふ由に承る何れも海軍服をつけたる九歳位を頭の御方計りなれば身輕に奔り玉ふ中にも第一の皇孫殿下は他の者が一つ宛擔ぐを見玉ひて我れは三つを一時に運ばんと他の者を驚かさせ玉ひ如何にし玉ふかと見奉ると賢しき哉洋杖を持ち出して之れに大根三つ四つを結び付け御身體に過ぎたる重量を運び玉ふとなむ御才智のさとしさ感服の外なし第二の皇孫殿下はまだ幼けなきため兄君の御眞似には及ばねば日頃御自慢の喇叭を出して音高らかに吹かせ玉ふ其喇叭につれて大根運搬の貴公子は足拍子揃へて面白く大根を擔ぎつゝ行進し玉ふとかや嗚呼　聖上陛下の叡明なる皇儲殿下の英歩なる事は萬民の仰いて夙知する所なるに今又皇孫殿下の御聰明を洩れ承はりて五千萬の臣民は愈々帝國の國柱太しく立ちますを祝賀し奉るなるべし（本紙第百三十六號丸尾宮中顧問官談話參照）

尚去十二月廿五日各皇孫殿下には沼津御用邸に御避寒あらせられたり。附言、皇孫殿下御眞影の背に接ひたる松が枝は斯界の巨匠梶田半古氏の謹寫せられたるものなり

○韓國皇太子殿下奉迎　昨年十二月十五日韓國皇儲殿下には御豫定の如く午後二時四十五分を以て新橋驛御着無事御入京あらせられたるにより本會よりは左記職員等同驛へ出張して奉迎せり。

評議員松平保子長谷川辰子高木富子松平須磨子清浦錬子千家俊子鍋島易子本莊孝子東鄕鐵子古市幸子黒木百子關郁子鄭濱子佐藤靜子中山幸子新山雅子仁杉歌子阿篤子松崎悦子韓國委員本部長鶴原誠子東京支部幹事　横幕武良子堀内ゑん子大澤菊芳宇津木廣子福原治子江藤照代中澤春子小川梶子山上滌子西川つい子秋間爲子寺井豐子松本幸子小泉靜子川名ヨシ子事務長代務補助高松鐵太郎其他本支部事務員等にして當日天氣晴朗なりしは慶すべし。

開年の御吉慶萬里同風芽出度申納候、先以て各地會員の君達には益々御健勝御齡を重ね被爲候段欣喜の至りに御座候、我れ等一同亦無事新年相迎へ候まゝ、御心やすう思召され度候、扨こ本年を以て戰勝後平和の第三年に入ること、相成り申し候、過去一年を顧れば、國家各方面の經營、社會百種の事業は、孰れも旭日昇天の勢を以て勃興發達し來て、誠に戰勝後の平和に相當せる成績を顯はし候は、國家の爲め大慶至極に御座候、是れ畢竟國民往邁の精神努力の氣根の然らしむる所に外ならずと存候。我が愛國婦人會も、亦其間に在りて益々國民の同情を博し、六十萬の會員は六十八萬餘と相成り、贊助員を計算せば實に七十餘萬に達せり、從て本會の目的たる軍人の遺族及び廢兵の救護に一般の進捗を見ること、相成り候は、大勢の然らしむる所とは云へ全く總裁閑院宮妃殿下の難有き思召を體して、會員諸氏が能く其實行に勉められたるの結果に有之候。何卒本年は兼て發表せられし會員大募集の計畫をば是非とも實行完成を期するの覺悟にて、御互に奮發勉強し、充分本會の趣旨を貫徹致度ものに御座候、先は新年の御祝詞まで、めでたくかしこ

明治四十一年一月一日

愛國婦人會

監事　男爵夫人　三井苞子
同　公爵夫人　九條惠子
理事　子爵夫人　岡部坻子
同　子爵夫人　谷玖滿子
同　侯爵夫人　山内禎子
同　侯爵夫人　鍋島榮子
同　公爵夫人　大山捨松
同　前公爵夫人　毛利安子
同　公爵夫人　島津田鶴子
同　前公爵夫人　近衛貞子
同　公爵夫人　徳川泰子
同　公爵夫人　一條悦子
會長　公爵夫人　岩倉久子

愛國婦人會支部職員
愛國婦人會々員
御中

恭賀新年

愛國婦人會本部事務員一同

◎新年會記事

本月十五日午後一時より偕行社に於て本會職員の新年會を開催す（會費一圓の事）なほ同日は評議員會をも開く筈。

○奧村刀自傳記は昨冬出版の筈にて印刷中なりしが已を得ず遲延せしに付來る本月下旬より代價到着順を以て發送することゝせり。

子爵小笠原長生立案　佐藤正校正　愛國婦人會編纂

奧村五百子刀自詳傳目次（近刊）

○寫眞　二十葉入
○刀自年譜

第一編　前記
第一章　故郷
第二章　家系
第三章　家庭
第四章　幼年時代
第五章　青春時代
第六章　主婦時代
第七章　地方的活動時代
第八章　韓國活動時代
第二編　本記
第一章　時代の使命　附妃殿下へ拜謁
第二章　南清視察
第三章　北清軍慰問　附刀自と愛國婦人會
第四章　愛國婦人會の建設及發展（創立時代）其一
第五章　同　上（經營時代）其二
第六章　刀自の遊說
第七章　愛國婦人會の建設及發展（活動時代及擴張時代）其三
第八章　刀自の滿韓出征軍慰問
第九章　刀自の退隱　附牛ヶ淵公園と虹の松原
第十章　刀自の逝去　刀自の葬儀
第十一章　刀自の性行
第三篇　後記
第一章　當代名流の刀自人物評（其一）
第二章　同（其二）
第三章　刀自に關する詩歌
第四章　拾遺雜記（其一）
第五章　同（其二）
第六章　同（其三）
○附錄
愛國婦人會年表等

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

○愛國婦人會忘年會　愛國婦人會にては二十日午後五時より通信記者並に廣告社員等忘年會を開き一同食卓に就くや事務長佐藤少將は挨拶に次て同會發展に關する將來の希望を述べ下田文學士は機關雜誌愛國婦人に對する意見に就き演說する所あり餘興として福引等の催しあり和氣靄々の間に同會の萬歲を三唱して散會したり

愛國婦人會四十年度年史一覽

一月二日　故近衛公爵三年祭執行に就き、本會職員等日暮里墓地へ出張參拜す。
仝　九日　九段偕行社樓上に於て新年賀會開催。
仝　十六日　參事會開催。
仝　十八日　顧問會開催。
仝　廿三日　評議員會開催。
仝　日　奥村五百子氏本日京都醫科大學病院へ入院の電報あり。
二月五日　奥村女史危篤の報あり、岩倉會長近衛理事等見舞の電報を發す。
仝　六日　評議員鄕濱子氏本會を代表して京都へ發向す、此日刀自正七位に敍せらる。
仝　七日　奥村五百子氏逝去の訃京都支部長より來電
評議員清浦錬子氏會長代理として臨席す。
仝　十日　京都にて奥村刀自の葬儀を執行。
仝　十三日　大會準備委員會開催。
仝　廿三日　參事會及總會準備委員會開催。
仝　廿七日　第三總會準備委員會及評議員會開催。
三月二日　故奥村刀自の遺骨を新橋驛に迎へ直ちに之を淺草本願寺へ送る。
仝　七日　故奥村刀自追弔會を執行す大谷光瑩師導師たり。
仝　十三日　故奥村刀自傳記材料蒐集の爲、大久保庶務課長唐津へ出張す。
仝　二十日　參事會開催。
仝　廿五日　顧問會開催。
仝　廿七日　評議員會開催。
四月二日　參事會開催。
仝　十日　故奥村刀自傳記第一回原稿成ル。
仝　十一日　一條理事佛國より歸朝に付、兵庫支部長之を神戸港に迎ふ。
仝　十五日　佐藤會計監督、各支部主事を招集して訓示的談話あり、尚會務の打合せを爲す。
仝　十六日　[illegible]業を靖國神社能樂堂に行ふ。
仝　十八日　總裁殿下の御台臨を仰ぎ、九段偕行社に各府縣知事招待會を開く。
仝　廿三日　卅九年度會計決算報告書に理事監事の捺印悉皆調ふ。
仝　廿七日　佩一等有功章者山形修氏逝去に付松平評議員本會を代表して弔詞を持參す。
仝　廿九日　東京支部職員會開催。
仝　參事會開催。
五月十二日　總裁殿下神奈川支部第二回總會に御台臨あらせらる。
仝　十五日　參事會開催。
仝　[illegible]　第六回總會準備役員會開催。
仝　十九日　第六回總會を青山練兵場に開く。總裁殿下を始め奉り各名譽會員殿下御臨席あらせらる。
仝　廿日　佩有功章者には植物御苑を、一般會員には後樂園の拜觀を許さる。
仝　廿一日　佩有功章者には濱離宮を、其他一般會員には後樂園の拜觀を許さる。
仝　廿六日　總裁殿下には山形支部へ御台臨の爲上野驛御發車あらせらる。
仝　廿七日　參事會開催。
六月十二日　理事顧問及參事員會議を開く。
仝　廿六日　東京支部評議員會幷に幹事會開催。
七月一日　總裁殿下新潟支部總會へ成らせらる。
仝　三日　參事會開催。
仝　五日　遊說員富樫眞喜子石川支部へ赴く。
仝　六日　新潟支部第一回總會を長岡市に開く。
仝　七日　總裁殿下御一行御歸京。
八月四日　韓國本部相談役兒玉子爵より會長宛にて日韓負傷兵慰問の件に關し來電あり。
仝　七日　韓國京城長谷川軍司令官より慰問使に對する丁重なる感謝の電報來る。
仝　十五日　有馬評議員會長代理として函館支部總會へ出席の爲、上野驛を出發す。
仝　廿六日　函館大火の爲、支部總會延期となりし旨有馬評議員より來電あり。
九月十八日　參事會開催。
仝　十九日　課長會議を開く。
仝　廿一日　日露戰役紀念賞牌幷に木盃等を本部職員に配付を始む。
仝　廿三日　總裁殿下、島根支部總會へ御臺臨の爲、新橋驛を立せらる。
仝　廿五日　評議員會開催。
仝　廿八日　名譽會員各宮妃殿下へ戰役紀念賞牌を贈呈す。
仝　三十日　富樫遊說員愛知支部下へ發向す。
十月二日　島根支部下濱田に於て總會開催、會長代理としては古市評議員出席す。
仝　參事會開催。
仝　總裁殿下御一行御歸京。
仝　六日　中山一位局薨去に付、板垣評議員御邸へ參候。
仝　十日　皇太子殿下御渡韓につき、職員等新橋驛に奉送す。
仝　十三日　評議員酒井夏子氏病氣の爲、濱尾評議員其邸を見舞ふ。
仝　十三日　總裁殿下埼玉支部總會へ御臺臨あらせらる即夜御歸京。
仝　十四日　護國寺に於て故中山一位局葬儀執行に付、本會職員等會葬す。
仝　十八日　評議員伯爵夫人酒井夏子氏藥石効を奏せず遂に逝去す。
仝　十九日　岡部評議員故酒井評議員邸を弔問す。
仝　廿二日　故酒井評議員葬儀執行、岡部理事其他職員等會葬す。
仝　廿三日　評議員南鄕柳子氏逝去に付、新山評議員其邸を弔問す。
仝　評議員會を開く。
仝　廿五日　南鄕評議員葬儀執行に付、本會職員等之に會葬す。
十一月九日　韓國委員本部第一回總會を開く。
仝　十一日　後樂園に於て牛込幹事部主催の軍人遺族及廢兵慰藉園遊會あり、會長及び佐藤會計監督等出席す。
仝　韓國宮内大臣宛、同國皇帝陛下より委員本部基本金中へ二千圓の恩賜ありたる謝電を會長名にて發送す。
仝　十四日　皇太子殿下の還啓を新橋停車場に奉迎す。
仝　十五日　總裁殿下御殿に於て韓國本部長鶴原誠子に特別有功徽章を御親授あらせらる。
仝　十六日　特別の御思召を以て岩佐評議員へ特別有功徽章を贈與せらる。
仝　十八日　岩佐評議員昨夜逝去に付、中山評議員弔問を爲せり。
仝　十九日　參事會開催。
仝　廿一日　故岩佐評議員葬儀に付、本會職員等芝青松寺へ會葬す。
仝　廿二日　總裁殿下には岩倉會長、阿部、片岡兩評議員を隨へ廣島長崎兩支部總會へ御臺臨の爲、新橋驛を御出發あらせらる。
仝　廿三日　廣島支部總會、來會者一萬。總裁殿下御臺臨あらせらる。
仝　廿七日　評議員會開催。
仝　廿九日　長崎支部總會開催。總裁殿下御臺臨あらせらる。
十二月四日、宮崎支部總會開催、阿部評議員會長代理を勤め、片岡評議員臨席す。
仝　日　總裁殿下御一行御歸京。
仝　十日　本會職員幷に佩有功章者　兩陛下皇太子皇太子妃殿下等奉送迎の際、プラットホームへ無賃入場の許可願を呈出の處、即時認許を得たり。
仝　十三日　理事顧問會を開く。
仝　十五日　阿部、片岡兩評議員歸京。
仝　日　韓國皇太子殿下御入京に付、本會職員等新橋驛に奉迎す。
仝　十八日　評議員會開催。
仝　廿一日　小笠原評議員邸火あり同邸幷に二條、本莊兩評議員邸堀内顧問邸等を本會々長名にて見舞ふ。

支部の近況

○東京支部　愛國婦人會東京支部にては二十四日正午より評議員會を開き四十一年度に於ける豫算を議決し閉會後更に幹事會を開き本年度定期救護金其他に關する報告を爲す筈なりと

○大阪支部　當地支部にては府下居住の軍人遺族並に出征兵中の生計困難なる者六百八十餘名へ廿二日定期救護金として丁種の者へ金六圓丙種の者へ金三圓を夫れ〲交付したり

◎大阪支部及同事業部概況　目下就職者は二百十三名にして其仕事は清國南部本部郵便局員制服及陸軍被服廠大阪支廠より茶褐色絨外套に[illegible]等にして過般郵便局へ納付之縫料一萬餘圓(此就業日數約四十日間)を受領せり其他公立小學校又は一己人より注文續々あり遺家族の就業出願者も日々數名申込ありて通勤者は直に收容を爲し居るも寄宿を願ひ出るものは不日現在工場及其他建物改築の上にて充分收容する計畫なり工女等も一心就業し居るに付創立以來就業せる者等は何れも一ヶ月金二圓以上の收得を得二三ヶ月間の修業者にても一ヶ月六七圓以上を得ることを得て漸く當支部の目的を遂行することを得るに至れり

一　去る七日市内中之島公會堂に於て慈善演藝會を開催し當日非常なる盛會にて滿場立錐の地もなく爲めに諸費を控除して剩餘金千數百圓を得たり此れは工場改築の資に充てるものなり

一　本月より市内に住居せる遺族癈兵等の各戸踏査を開始し二名の事務員をして現況精査をなさしめ居れり

二　過般府下大冠村の彈工場爆發のため罹災中軍人遺族癈兵家族等へ支部救護金の内を以て即死者へ金六圓負傷者へ金三圓を贈與せり遺家族等は本會の厚意を深く感泣せり

三　各幹事部主任事務員を集め事務取扱の諸件打合會を開催せり

四　當支部工場は常に衞生上注意怠らざれど近頃市内各所に惡疫流行し幸にして支部附近には今日迄一名の患者を發せしことなきも軍隊及其他被服類を取扱ふを以て尚も充分防疫のため工場及事務室を一大防疫掃除を施し柱及床板全部に昇汞水又は石炭酸水を以て拭ひ一大清潔法を實行す其日數三日間を要せり

○京都支部　(韓國皇孫殿下の御動靜に付昨年十二月十四日京都支部長の報告左の如し)
拜啓皇太子殿下には本月十一日御着京同十三日御出發相成候迄[illegible]京都驛に參集し[illegible]五箇獻上致[illegible]候也

○青森支部　愛國婦人會黒石町職員南部幹事部(黒石町)に於て會費未納整理に關し職員會を開く旨町の幹事會費收集[illegible]二十有餘名に對し通知書を發したる[illegible]

○岐阜支部　愛國婦人會羽島南部に於ける愛國婦人會總會は昨年十二月七日開催の豫定なりしも都合に依り延期したるが愈々今十七日竹ヶ鼻町光照寺に於て開會する筈

○大分支部　愛國婦人會三週年記念篤志看護婦人會及び愛國婦人會大野郡幹事部創立三週年紀念會を去る十三日三重町に於て開催せり同日正午參列員着席と共に[illegible]

○愛媛支部　明治四十年十月三十一日八幡濱町[illegible]に於て愛國婦人會西宇和郡幹事部第二回總會を舉行す今其狀況を記せんに會場入口には大なる國旗を交叉し門の右方に愛國婦人會愛媛支部西宇和郡幹事部總會場なる門標を揭げ同會場の正面を以て式場とし且會員の休憩所とし場の正面には高座を設け更に高卓を据へ殿下の御寫影を奉按し幟幕を張り小國旗を交叉し其傍に花瓶を置き松及其他種々の花卉を挿み又今回の總會には軍人の遺族及癈兵を招待することゝなしたるを以て會場には遺族席を設け會員と其他の者とを區別する等萬般の準備整へり頓に豫定の時刻午後二時に至れば三發の煙火を合圖に一同着席左の順序により式を行ひ餘興として煙火へ引續き蓄音器音樂隊素人手踊等ありて不絶興を添へたり

以上の他記事輻輳の爲本紙に揭げ得ざりしものは次號にて報告することゝせり。

愛國美譚

愛知縣の雙璧

愛知縣寶飯郡廣石村なる渡邊みの子刀自となんいつるは去にし明治三十八年六月の頃本會幹事の囑託を受け其身は六十路の坂にかゝれりしも志いと雄々しく東西に走せ南北にかけめぐりて會員の募集に其一身をさゝげ忽ち寶飯郡內に多數の會員を募り得しが特にせまからぬ廣石村の中には戶々愛國婦人會員の標札を揭げぬは無き迄に至りぬ刀自が幹事となるや時恰も對露戰爭の際なりければ出征軍隊後送傷病兵の送迎犒軍に奮勵し居村より御油驛まで一里餘も距たれるを風雨寒暑の數かは身のいたつきをさへ推して之に當り遂に一回だも休みしとなかりきとぞされば本年五月愛知支部總會の砌特に三等有功章を授與せられぬ。

戰雲をさまりし後動もすれば本會の趣旨を誤解して或は退會を申出て或は會費を怠るなど心得違を爲す者ありと聞く時は刀自は直に其家に就き懇に本會の趣旨を說示して其戰時なると平時なるとを問はず本會の無かるべからざる所以を會得せしめ其不心得を止しむるを常とせり。

刀自は奥村女史の逝去を痛く悲しみせめては其追弔會を催さんとて千々に心を碎きしも何事も先つは金なるを既に戰爭以來いくそ度か寄附金を募りし後なれば又如何とも爲し難くて思ひわづらひてありしが折しも愛知支部總會の際紀念の爲に會員に盃を配布せしが總會に參會せざりし會員には各町村役場に其盃の配布を委託したり刀自は此事を聞きて同僚なる河合幹事と相談を遂げ役場に就きて其盃を自ら配布せんことを申込みたりしに役場にては喜びて諾せり扨て河合幹事と共に每日盃を擔ひて會員の家を訪ひ其機を以て奥村女史の英靈を慰めたき心願を熱心に陳べしかば會員の人々淚ながらに同情を表し、促さずして十錢若くは二十錢づゝの寄附者陸續とあらはれ忽ち積りて十八圓許とはなりぬ扨費用はかつ〲ながら得てけり追弔法會は如何なる方法にて營むべきか先づ公共心に篤き村內淨法寺の住職に謀りて援助を受け郡內各宗の僧侶に通知して布施なしに讀經せんとを依賴せり斯くて當日となるや多數の會員と遺族病兵等參拜者堂に充滿し各宗僧侶二十五六名も集りたるは例少なきいと〱莊嚴なる法會は營まれけり此の多數なる當日の參拜者には赤飯と煮しめとを饗じたるが其れも一切他人の手を煩はさず刀自と河合幹事と兩人にて總べて之を辨じたりといふ然るに當日の費用は尙ほ四圓餘を殘せり之を如何に處分すべきか布施にせんか僧侶達も受けず遂に郡內の遺族癈兵中の最困窮者十軒へ頒つことゝせり是に就いて其當時遺族の一人より左の謝狀を贈れりとぞ

あはれ渡邊みの子刀自の如きは實に〱得がたき篤志なる婦人にこそあれさきに揭げし本田夫人と共に愛知縣の雙璧なりといひつべし

謹賀新年

愛國婦人發行所
監督　佐藤正
主筆　下田次郎
發行人　山澤俊夫
編輯人　大久保高明
同　永持德一

明治四十一年一月一日

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

皇孫殿下

帝國圖書館 IMPERIAL LIBRARY

淳宮殿下　　迪宮殿下　　光宮殿下

明治四十一年一月五日發行（毎月二回五日廿日）明治三十五年三月二十七日（第三種郵便物認可）

發行兼印刷人山澤俊夫　編輯人大久保高明　發行所愛國婦人會內愛國婦人發行所　印刷所東京牛込區市ケ谷加賀町一丁目十二番地株式會社秀英舍第一工場

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF MICHIGAN